

# 北九州市子ども・子育て支援に関する 市民アンケート調査

## 報告書 (概要版)

北九州市子ども家庭局



# 目次

## I. 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	1
4. 調査期間	1
5. 回収結果	1
6. 調査実施機関	1
7. 集計・分析上の注意	2

## II. 調査結果

1. 子育てに関する悩みや不安など	3
(1) 子育てに関する悩みや不安を感じるか	3
(2) 子育てをされていて楽しいと感じるか	3
(3) 子育てに関して、日常悩んでいることや気になること	4
(4) 子育てについて相談できる人（場所）がいるか（あるか）	6
(5) 子育てに関する悩みや不安の相談先	7
2. 子育てを支えてくれる人	8
(1) 子育てが地域に支えられていると感じるか	8
(2) 子育てを支えてくれる人（場所）がいるか（あるか）	8
(3) どんな人・場所に子育てが支えられていると感じるか	9
3. 子育て支援事業の認知度など	10
(1) 子育て支援事業の認知度等（調査対象：就学前児童の保護者）	10
(2) より力を入れてほしい子育て支援策（就学前）	11
(3) より力を入れてほしい子育て支援策（小学生）	12
(4) より力を入れてほしい子育て支援策（中高生）	13
(5) 小学生（高学年）が希望する子育て支援策	14
(6) 中学・高校生が希望する子育て支援策	15
4. 情報の入手方法・発信してほしい内容	16
(1) 子育てに関する情報の入手方法	16
(2) 行政の子育てに関する情報発信において力を入れてほしいこと	17
(3) 情報発信してほしい内容	18
5. ワークライフ・バランス	19
(1) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の状況	19
(2) 保護者の現在の就労状況	20
(3) 仕事と子育てを両立させる上で母親が大変だと感じること	21
(4) 仕事と子育てを両立させる上で父親が大変だと感じること	22
6. 子どもの生活と家族の関係	23
(1) テレビやインターネット等を見る時間	23
(2) 家族との会話の状況	24

(3) 子どもの話を聞いているか .....	24
(4) 中高生の親が子どもの生活上で気になること .....	25
7. 子どもと近隣の大人とのコミュニケーションの状況 .....	26
(1) 近所とのコミュニケーション（声かけなど）の状況（小学生） .....	26
(2) 子どもが近隣の大人とコミュニケーションをとる機会.....	26
8. 結婚・出産について（調査対象：18歳～39歳） .....	27
(1) 現在、結婚していない人の結婚に対する意識 .....	27
(2) 現在、結婚していない人の独身でいる理由 .....	28
(3) 今後、子どもをほしいと思うか .....	29
(4) 理想的な子どもの数 .....	29
(5) 実際に持とうと考えている子どもの数 .....	30
(6) 子どもの数の理想と現実が違う理由 .....	30

# Ⅰ. 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」の次期計画【令和2～6年度】（「子ども・子育て支援事業計画」を含む）の策定にあたり、計画をより実効性のあるものとするため、家庭の状況や子育ての実態、保護者の意識などを把握することや、教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算定することを目的として実施した。

## 2. 調査対象

- ①就学前児童の保護者（調査票Aを配布） 5,000人
- ②就学前児童の保護者（調査票Bを配布） 3,000人
- ③小学生の保護者 3,000人
- ④中学・高校生の保護者 3,000人
- ⑤18歳から39歳の男女 3,000人

※対象者は、住民基本台帳より無作為抽出。

## 3. 調査方法

郵送調査

## 4. 調査期間

平成30年12月3日～平成30年12月20日

## 5. 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童の保護者（調査票Aを配布）	5,000	2,314	46.3%
就学前児童の保護者（調査票Bを配布）	3,000	1,559	52.0%
小学生の保護者	3,000	1,493	49.8%
中学・高校生の保護者	3,000	1,396	46.5%
18歳から39歳の男女	3,000	864	28.8%
計	17,000	7,626	44.9%

## 6. 調査実施機関

調査企画：北九州市 子ども家庭局子ども家庭部総務企画課

集計分析：株式会社日本統計センター

## 7. 集計・分析上の注意

- ・ 図表においては、サンプル数を「N」で表記した。
- ・ 比率は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。また、複数回答の質問については、合計が 100%を超えることがある。
- ・ 報告内容で、
  - 「就学前」とは就学前児童の保護者を対象とした調査結果
  - 「小学生」とは小学生の保護者を対象とした調査結果
  - 「中高生」とは中学・高校生の保護者を対象とした調査結果を示している。

## II. 調查結果

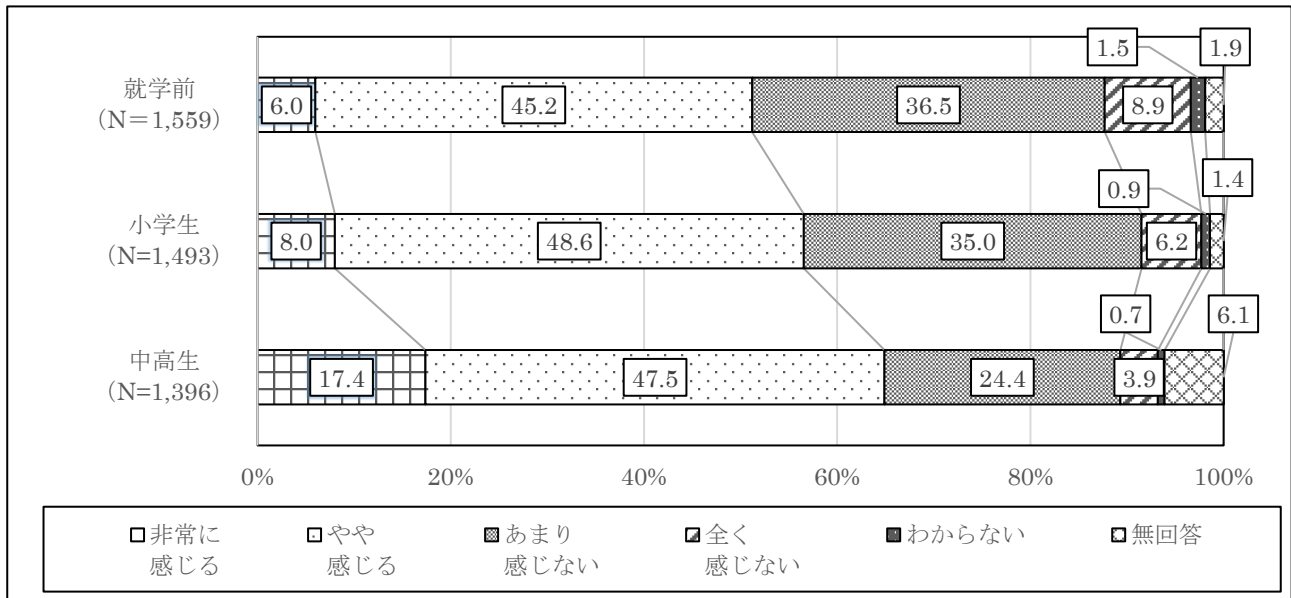




## 1. 子育てに関する悩みや不安など

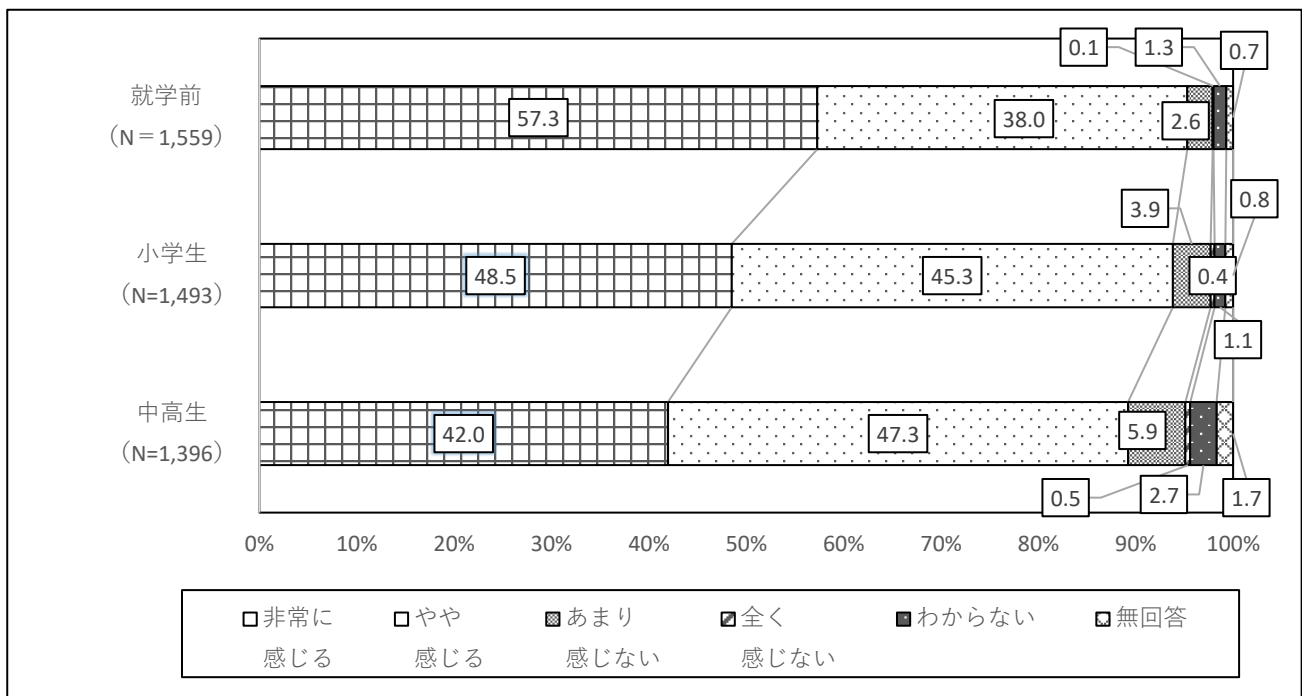
### (1) 子育てに関する悩みや不安を感じるか

悩みや不安を「非常に感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』の比率は就学前 51.2%、小学生 56.6%、中高生 64.9%、「あまり感じない」と「全く感じない」では就学前 45.4%、小学生 41.2%、中高生 28.3%となっている。



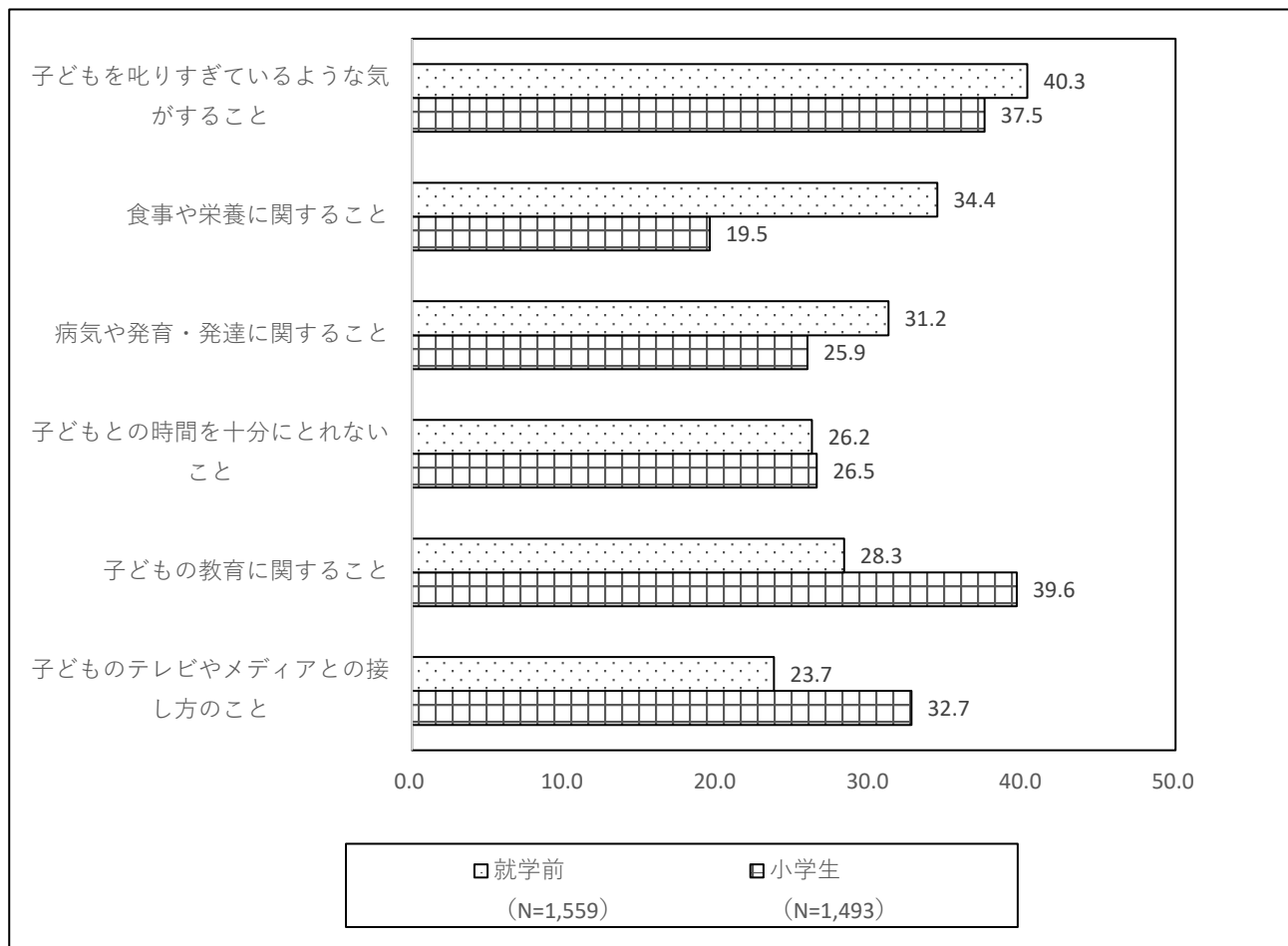
### (2) 子育てをしていて楽しいと感じるか

「非常に感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』の比率は就学前 95.3%、小学生 93.8%、中高生 89.3%、「あまり感じない」と「全く感じない」では就学前 2.7%、小学生 4.3%、中高生 6.4%となっている。



(3) 子育てに関して、日常悩んでいることや気になること（比率が高い項目を抜粋）【複数回答】

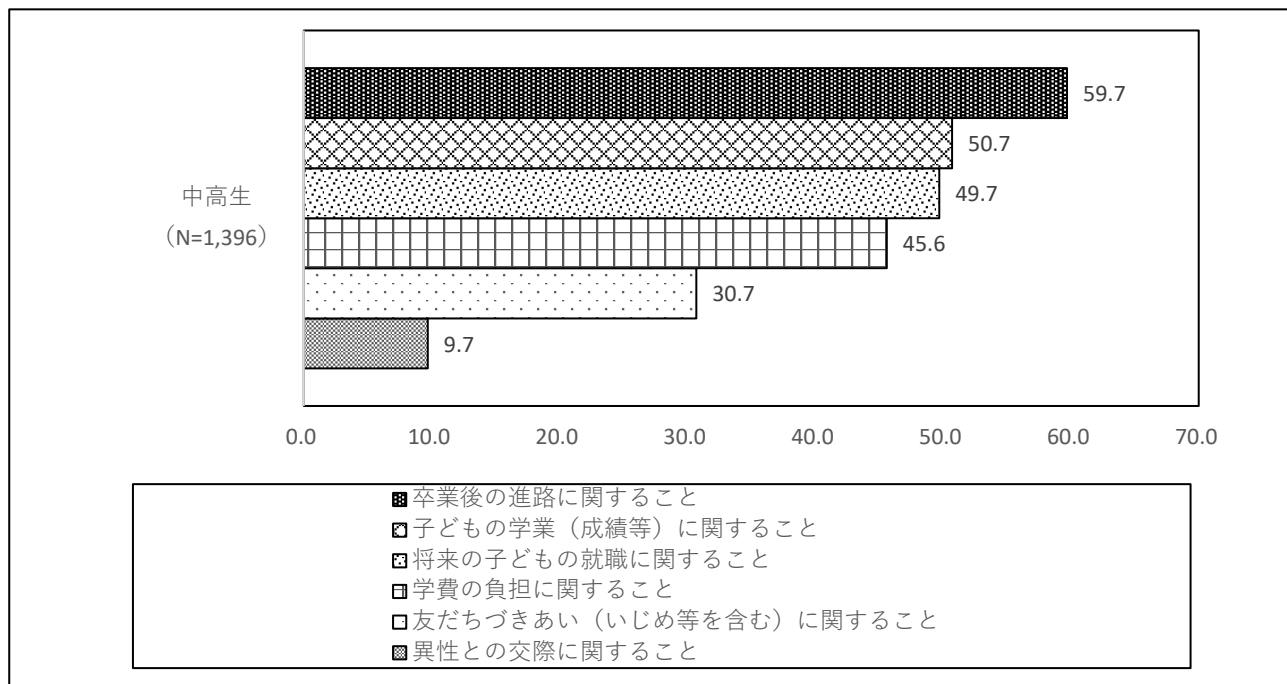
子育てに関して悩んでいることは、就学前は「子どもを叱りすぎているような気がする」とが40.3%で最も高い。次いで「食事や栄養に関すること」34.4%、「病気や発育・発達に関すること」31.2%、「子どもの教育に関すること」28.3%、「子どもとの時間を十分にとれないこと」26.2%となっており、小学生は、「子どもの教育に関すること」が39.6%で最も高く、次いで「子どもを叱りすぎているような気がする」と37.5%、「子どものテレビやメディアとの接し方のこと」32.7%となっている。



その他の選択肢

- ・子育ての経済的な負担が大きいこと
- ・配偶者、パートナーの帰宅時間が遅いこと
- ・仕事や自分のやりたいことが十分できないこと
- ・子どもの遊び場所（公園や施設等）のこと など

中高生は、「卒業後の進路に関すること」が59.7%で最も高く、次いで「子どもの学業（成績等）に関すること」50.7%、「将来の子どもの就職に関すること」49.7%となっている。

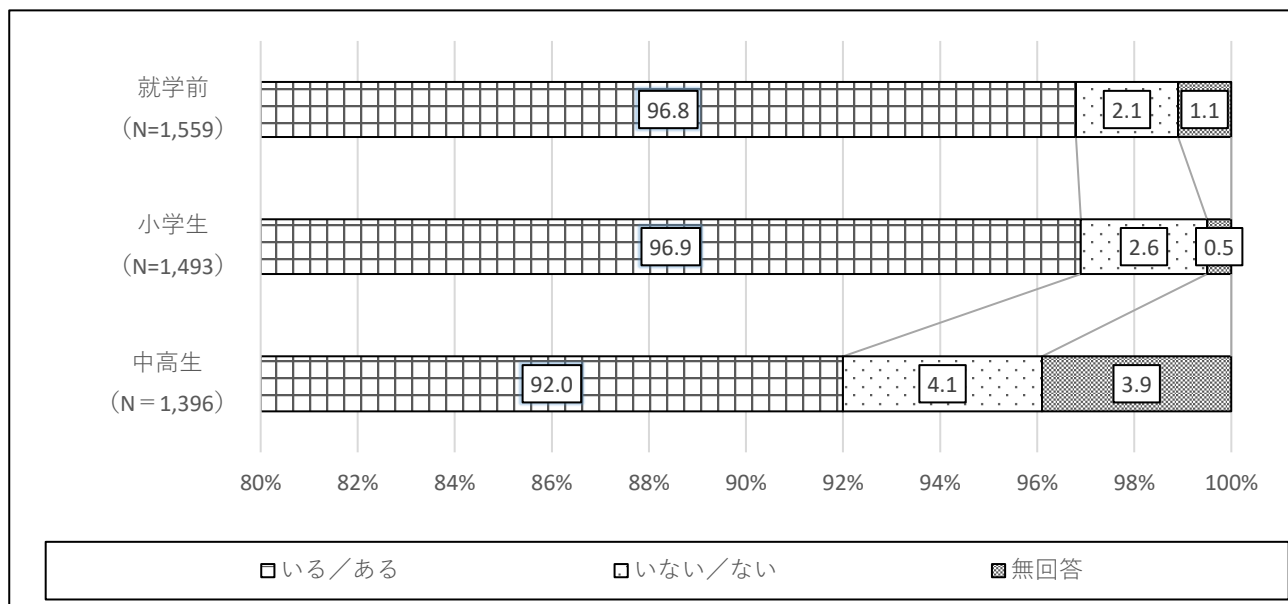


その他の選択肢

- ・子どもとの時間を十分にとれないこと
- ・ひきこもり、不登校等に関すること
- ・不良行為や非行に関すること など

#### (4) 子育てについて相談できる人（場所）がいるか（あるか）

子育て（教育を含む）をする上で気軽に相談できる人は、「いる／ある」が就学前 96.8%、小学生 96.9%、中高生 92.0%、「いない／ない」が就学前 2.1%、小学生 2.6%、中学生 4.1%となっている。

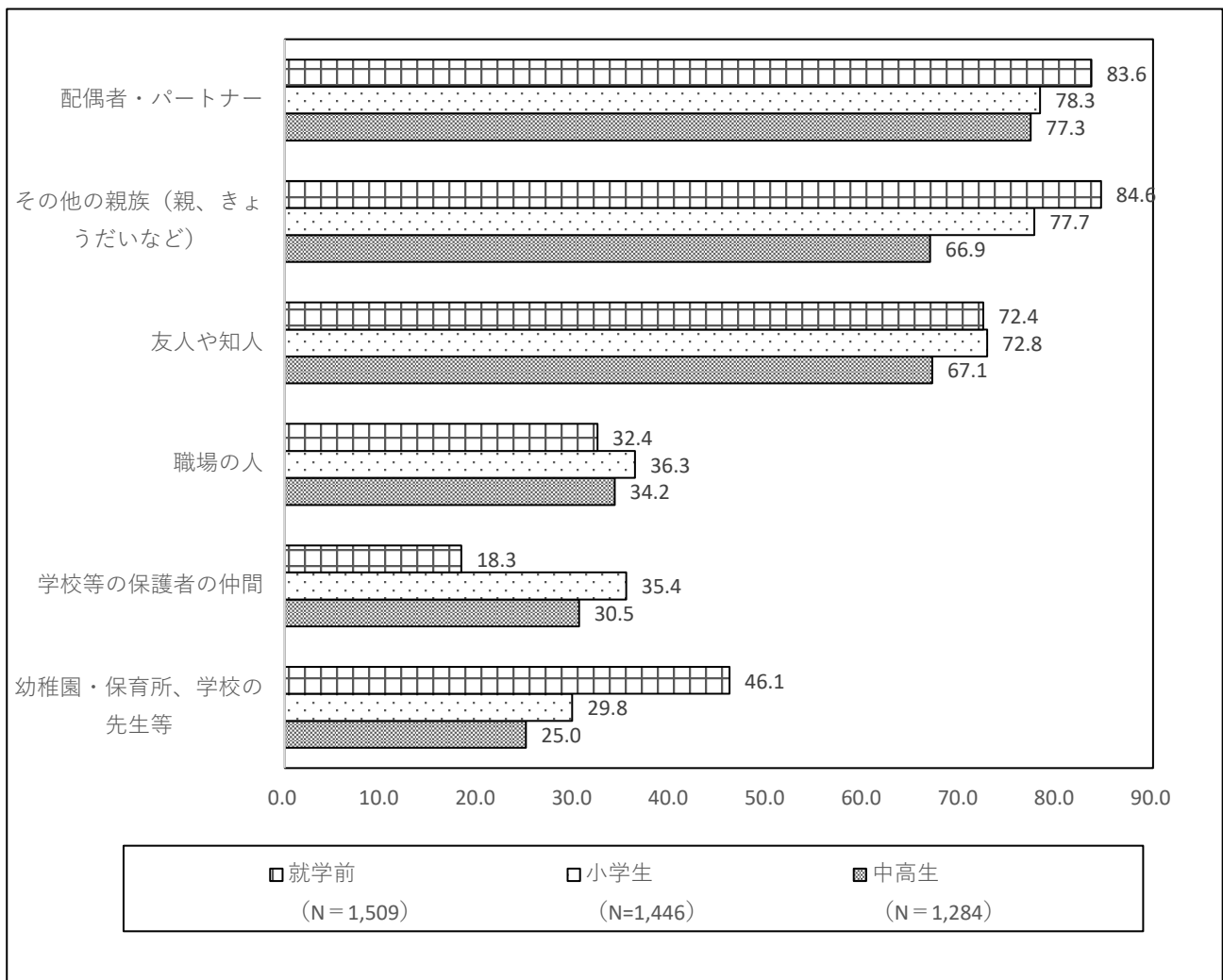


(5) 子育てに関する悩みや不安の相談先（比率が高い項目を抜粋）【複数回答】

子育てに関する悩みや不安を相談する先は、就学前は「その他親族（親、きょうだいなど）」が84.6%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」83.6%、「友人や知人」72.4%となっている。

小学生は、「配偶者・パートナー」が78.3%で最も高く、次いで「その他の親族（親、きょうだいなど）」77.7%、「友人や知人」72.8%、「職場の人」36.3%、「学校等の保護者の仲間」35.4%となっている。

中高生は、「配偶者・パートナー」が77.3%で最も高く、次いで「友人や知人」67.1%、「その他の親族（親、きょうだいなど）」66.9%となっている。



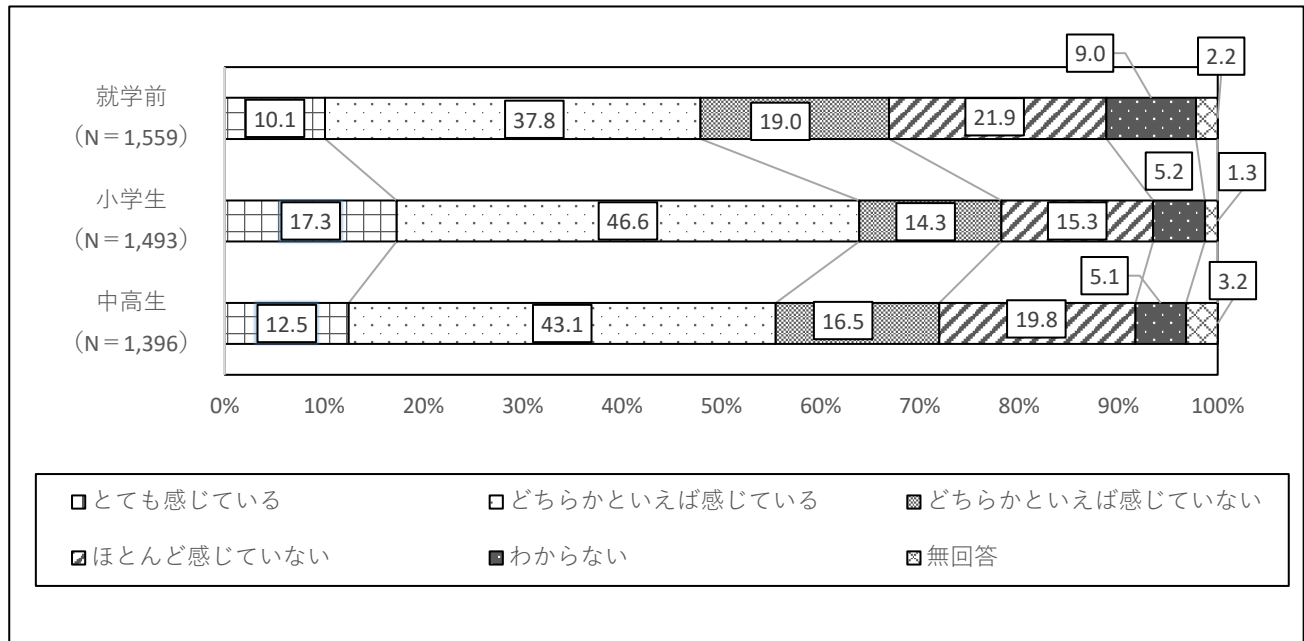
その他の選択肢

- ・かかりつけ医、看護師
- ・隣近所の人
- ・保健師、栄養士など（区役所）
- ・子ども・家庭相談コーナー
- ・児童相談所（子ども総合センター）      など

## 2. 子育てを支えてくれる人

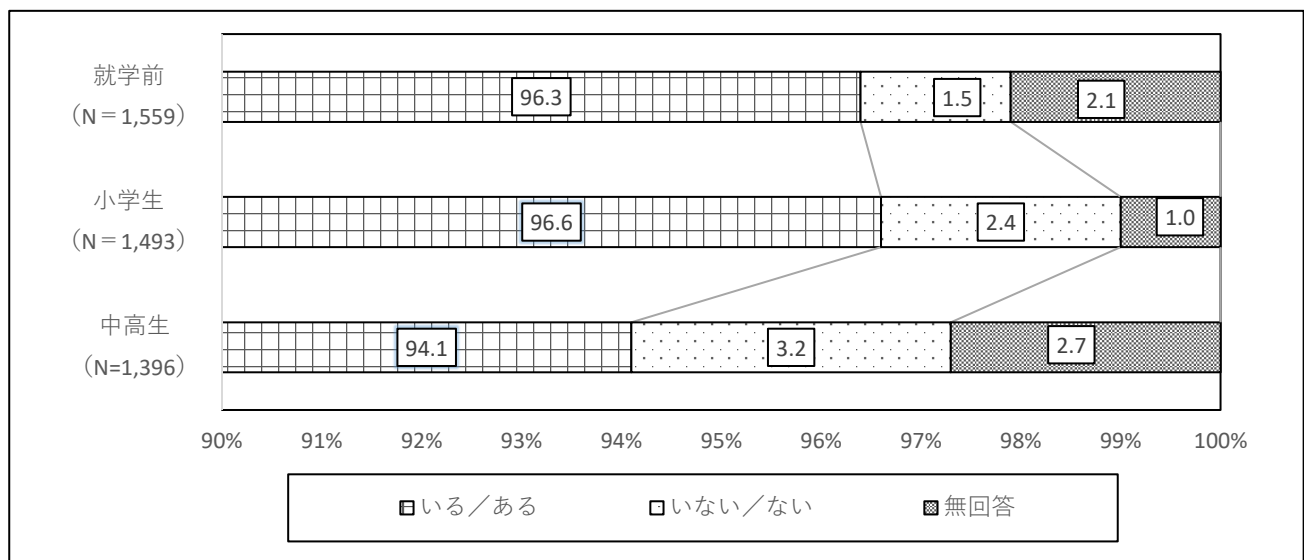
### (1) 子育てが地域に支えられていると感じるか

子育てが地域の人に支えられていると感じるかどうか尋ねたところ、「とても感じる」と「どちらかといえば感じている」を合わせた比率は、就学前は47.9%、小学生は63.9%、中高生は55.6%で、「どちらかといえば感じていない」と「ほとんど感じていない」では就学前40.9%、小学生29.6%、中高生36.3%となっている。



### (2) 子育てを支えてくれる人（場所）がいるか（あるか）

子育てを支えてくれる人の有無は、「いる／ある」が就学前96.3%、小学生96.6%、中高生94.1%、「いない／ない」が就学前1.5%、小学生2.4%、中高生3.2%となっている。

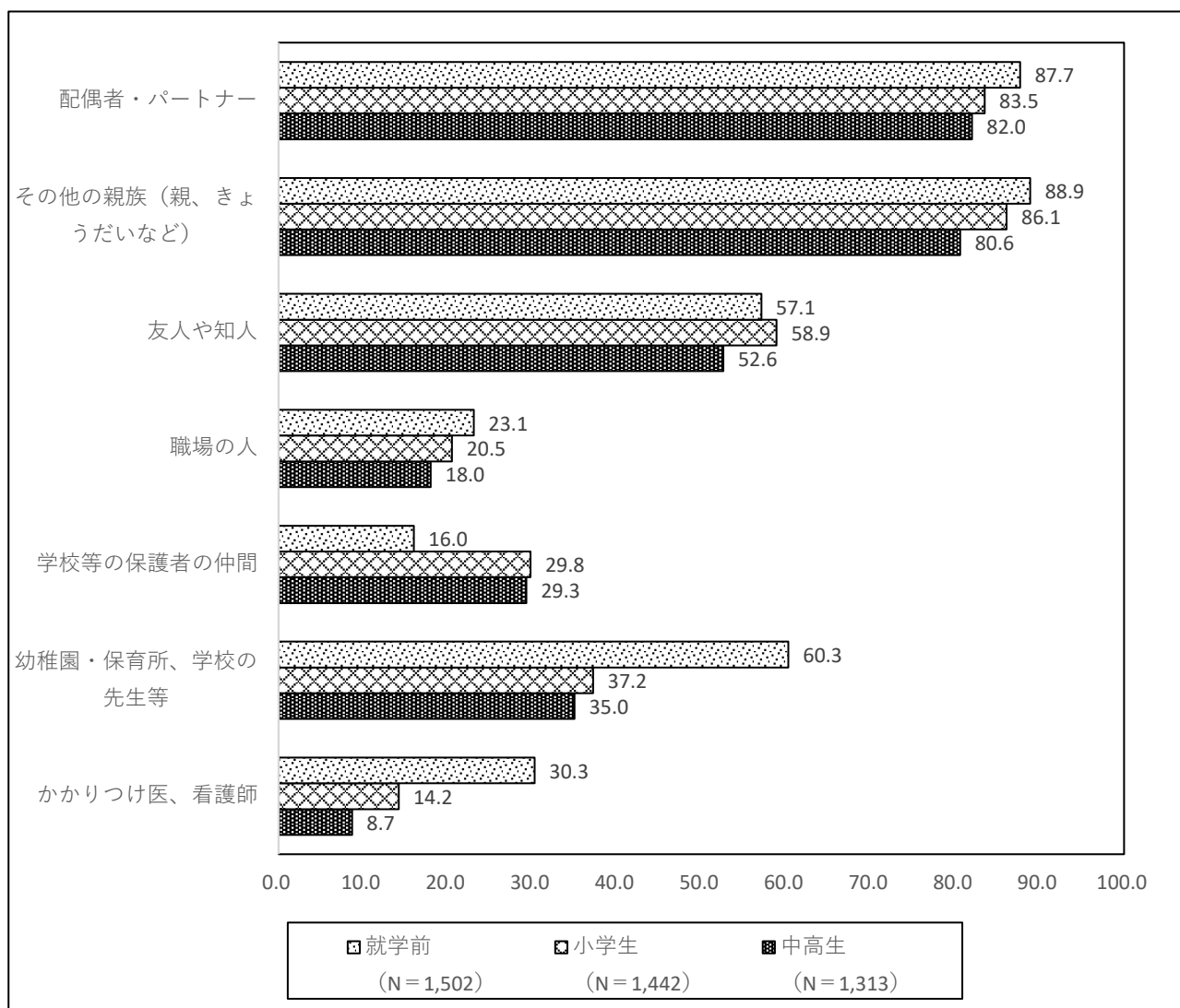


### (3) どんな人・場所に子育てが支えられていると感じるか（比率が高い項目を抜粋）【複数回答】

子育てを支えてくれている人・取組は、就学前は「その他の親族（親、きょうだいなど）」が88.9%で最も高く、「配偶者・パートナー」87.7%、「幼稚園・保育所、学校の先生等」60.3%、「友人や知人」57.1%となっている。

小学生は、「その他の親族（親、きょうだいなど）」が86.1%で最も高く、「配偶者・パートナー」83.5%、「友人や知人」58.9%となっている。

中高生は、「配偶者・パートナー」が82.0%で最も高く、次いで「その他の親族（親、きょうだいなど）」80.6%、「友人や知人」52.6%となっている。



#### その他の選択肢

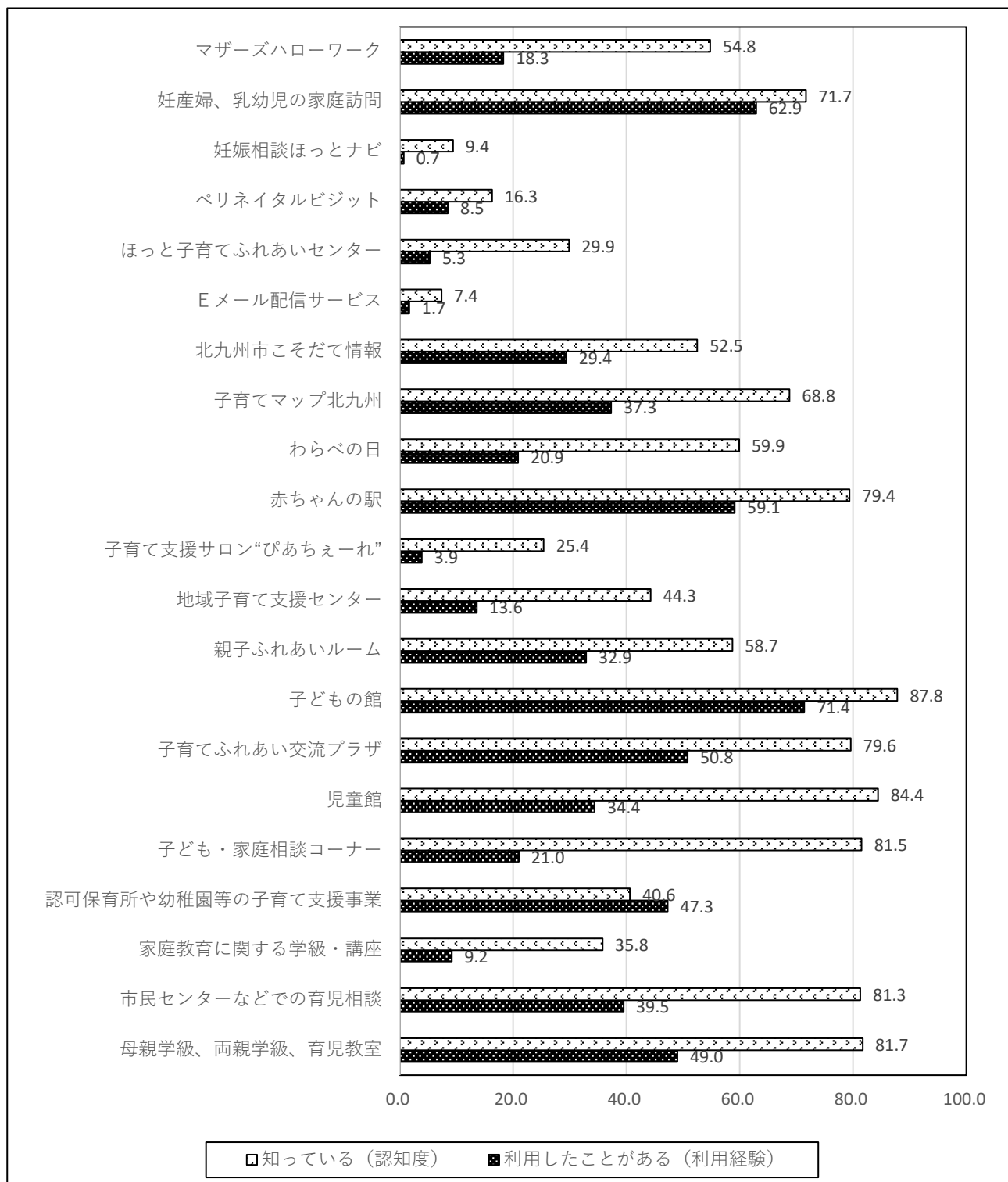
- ・ 隣近所の人
- ・ 障害関連施設
- ・ 市民センター（子育て相談や子育てサークル）
- ・ 子ども・家庭相談コーナー
- ・ 子育て支援施設
- など

### 3. 子育て支援事業の認知度など

#### (1) 子育て支援事業の認知度等（調査対象：就学前児童の保護者）【複数回答】

各種事業の認知度は、「子どもの館」が87.8%で最も高く、次いで「児童館」84.4%、「母親学級、両親学級、育児教室」81.7%、「子ども・家庭相談コーナー」81.5%、「市民センターなどでの育児相談」81.3%、「子育てふれあい交流プラザ」79.6%、「赤ちゃんの駅」79.4%などとなっている。

各種事業の利用経験は、「子どもの館」が71.4%で最も高く、次いで「妊産婦、乳幼児の家庭訪問」62.9%、「赤ちゃんの駅」59.1%、「子育てふれあい交流プラザ」50.8%、「母親学級、両親学級、育児教室」49.0%、「認可保育所や幼稚園等の子育て支援事業」47.3%などとなっている。

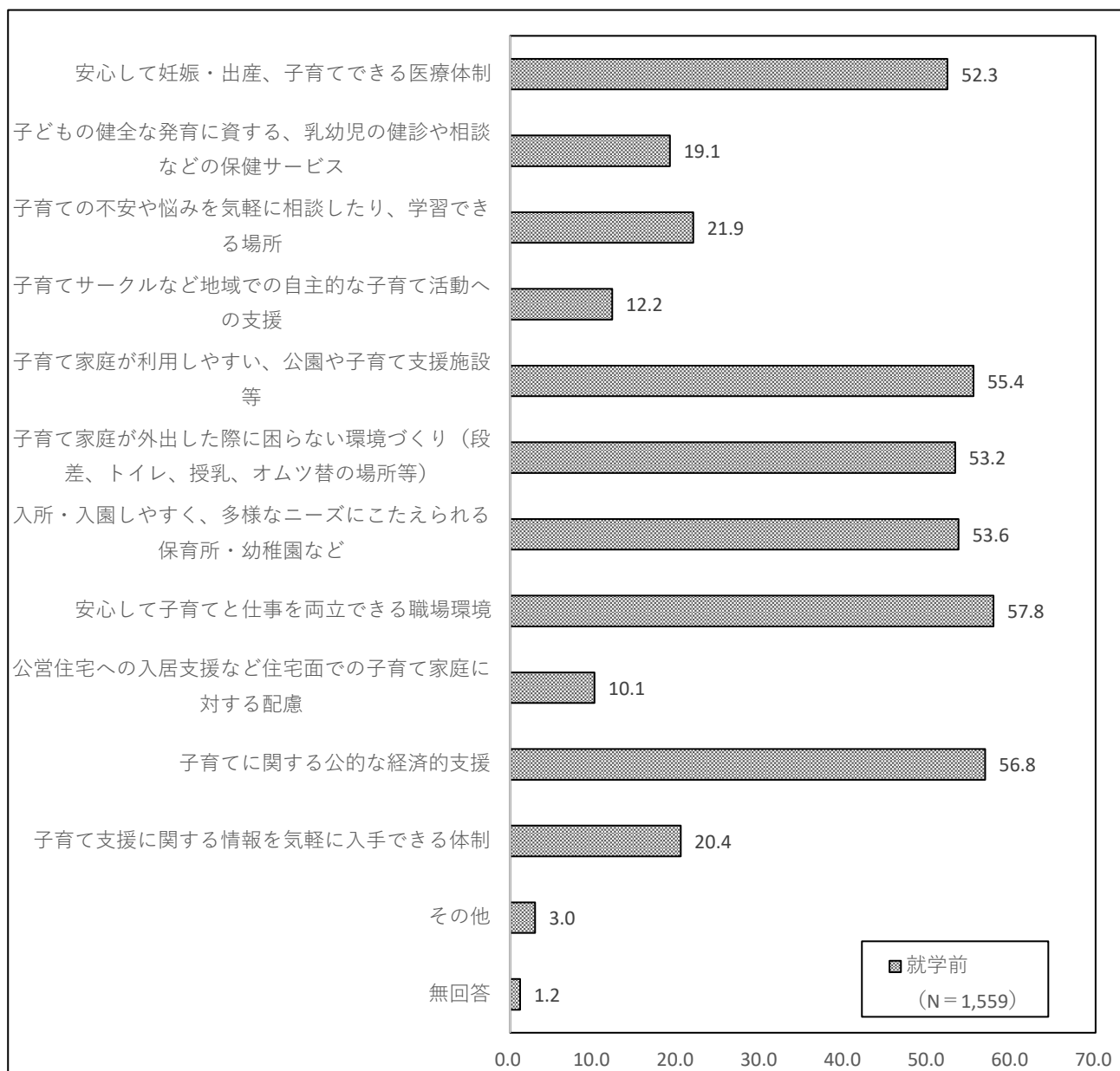




- ※1 親子ふれあいルーム：区レベルでは区役所または近接した公共施設に、地域レベルでは9箇所の児童館（風師、中島、新政町、葛原、徳力、高須、楠橋、小嶺、夜宮）に設置している。
- ※2 地域子育て支援センター：市内3箇所にあり、主に保育所に併設されている。（小倉南区、若松区、八幡東区に各1箇所）
- ※3 北九州市こそだて情報：子育て支援に関する様々なサービス、制度、施策の情報を一冊にまとめた情報誌
- ※4 ほっと子育てふれあいセンター：地域で子育ての援助を行いたい者と、子育ての援助を受けたい者を会員とする相互援助組織。保育施設の開始前や終了後、急な残業などの際に子どもを預り、子育て家庭を支える事業（対象年齢：生後3ヶ月～小学6年生）。
- ※5 ペリネイタルビジット：産前・産後に、産婦人科からの紹介で小児科を訪問し、予防接種の受け方や育児の仕方など何でも相談できる事業。

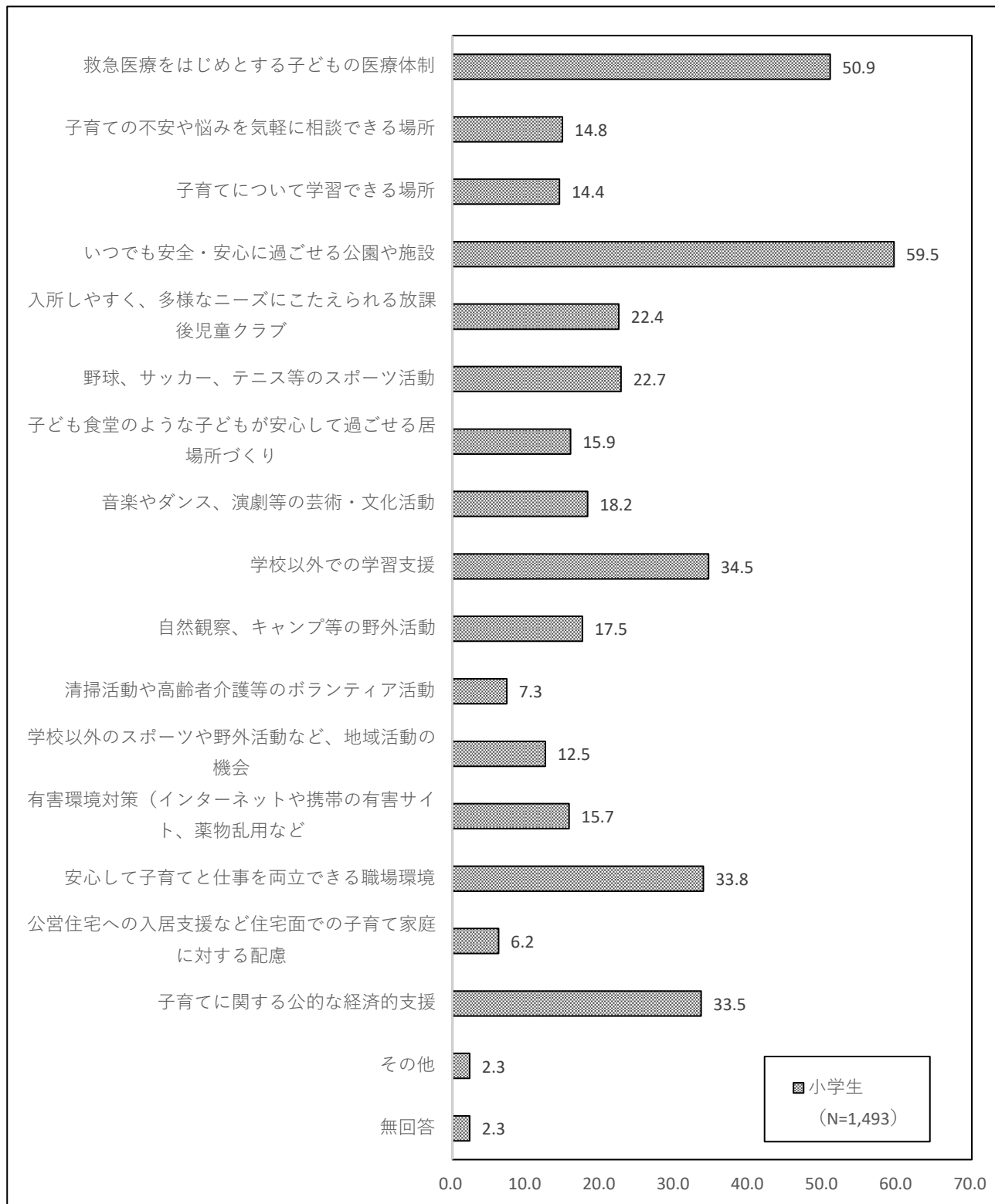
**(2) より力を入れてほしい子育て支援策（就学前）【複数回答】**

「安心して子育てと仕事を両立できる職場環境」が57.8%で最も高く、「子育てに関する公的な経済支援」56.8%、「子育て家庭が利用しやすい、公園や子育て支援施設等」55.4%、「入所・入園しやすく、多様なニーズにこたえられる保育所・幼稚園など」53.6%、「子育て家庭が外出した際に困らない環境づくり（段差、トイレ、授乳・オムツ替えの場所等）」53.2%となっている。



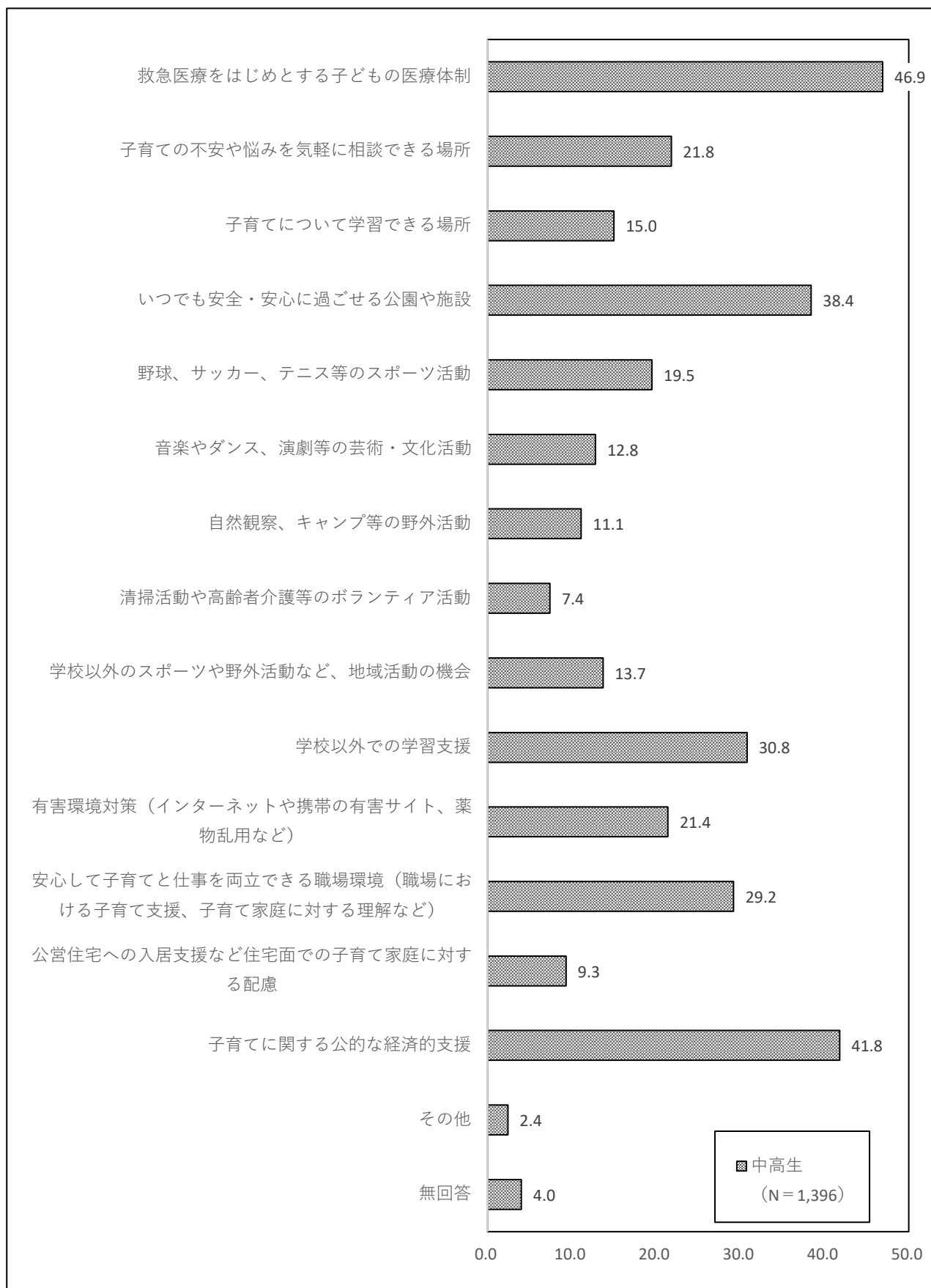
### (3) より力を入れてほしい子育て支援策（小学生）【複数回答】

「いつでも安全・安心に過ごせる公園や施設」が59.5%で最も高く、「救急医療をはじめとする子どもの医療体制」50.9%、「学校以外での学習支援」34.5%、「安心して子育てと仕事を両立できる職場環境（職場における子育て支援、子育て家庭に対する理解など）」33.8%、「子育てに関する公的な経済支援」33.5%となっている。



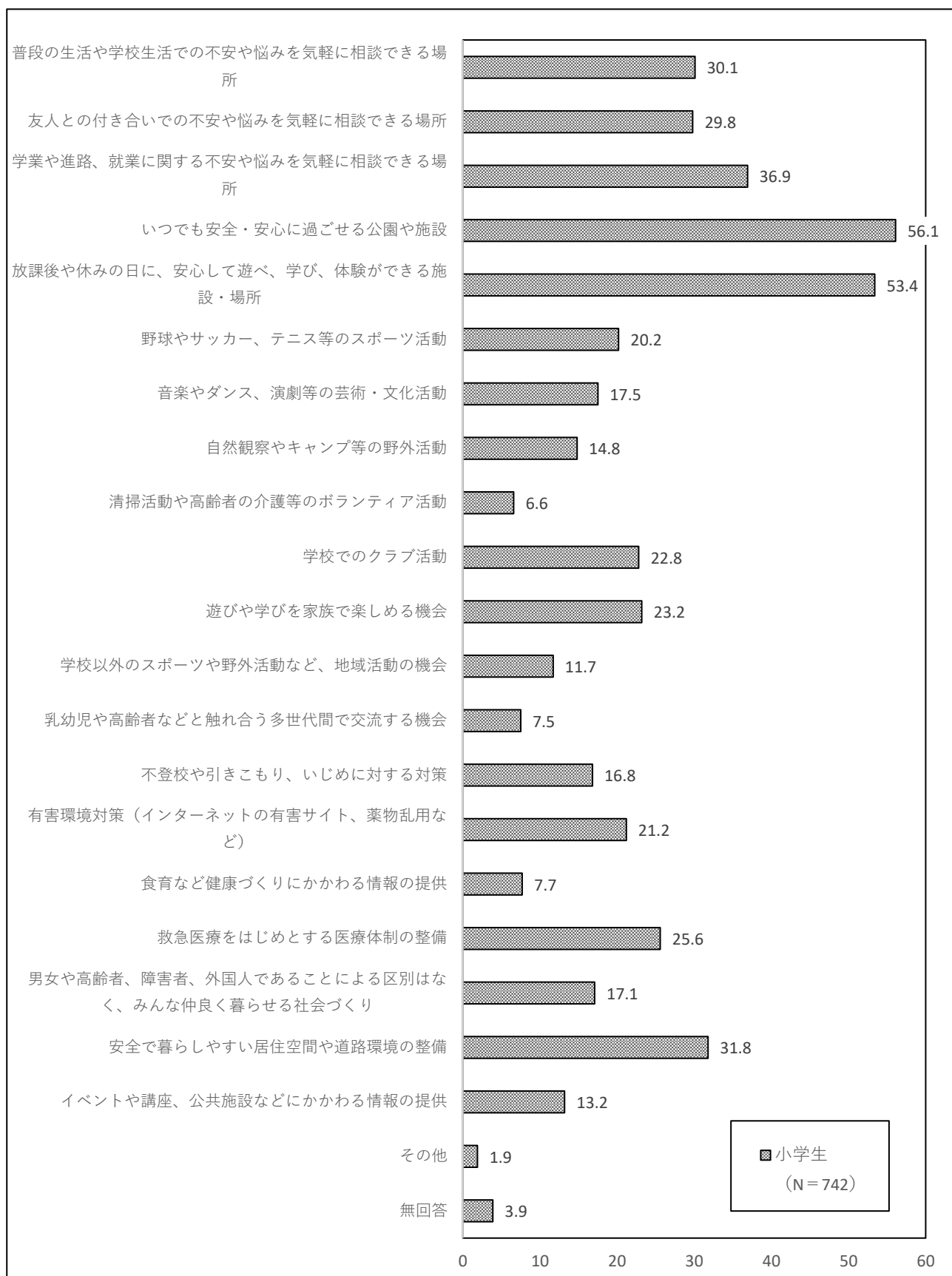
(4) より力を入れてほしい子育て支援策（中高生）【複数回答】

「救急医療をはじめとする子どもの医療体制」が46.9%で最も高く、次いで「子育てに関する公的な経済的支援」41.8%、「いつでも安全・安心に過ごせる公園や施設」38.4%となっている。



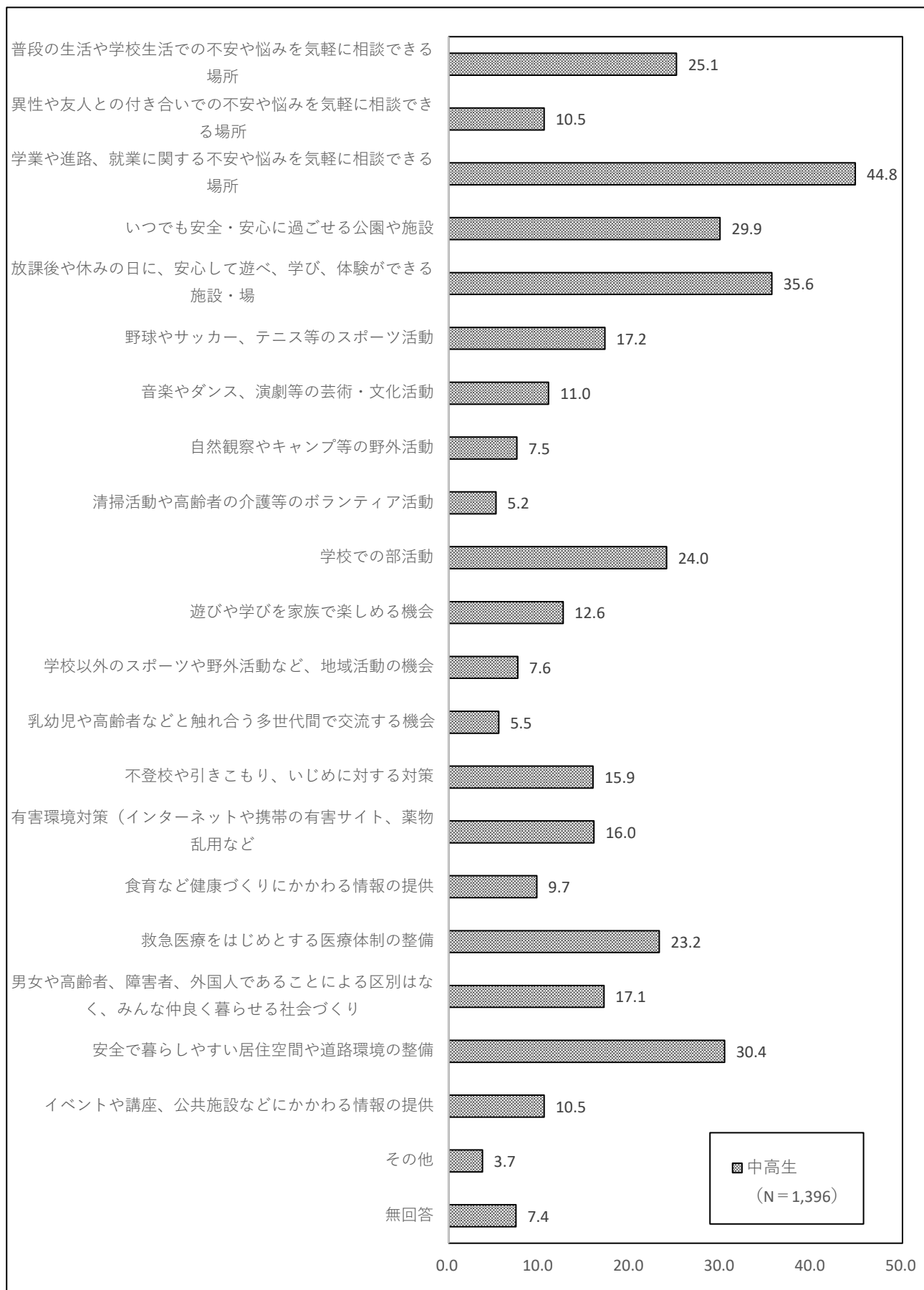
### (5) 小学生（高学年）が希望する子育て支援策【複数回答】

「いつでも安全・安心に過ごせる公園や施設」が56.1%、「放課後や休みの日に、安心して遊べ、学び、体験ができる施設・場所」が53.4%、この2つが圧倒的に高かった。次いで「学業や進路、就業に関する不安や悩みを気軽に相談できる場所」36.9%、「安全で暮らしやすい居住空間や道路環境の整備」31.8%となっている。



### (6) 中学・高校生が希望する子育て支援策【複数回答】

「学業や進路、就業に関する不安や悩みを気軽に相談できる場所」が44.8%で最も高く、次いで「放課後や休みの日に、安心して遊べ、学び、体験できる施設・場所」35.6%、「安全で暮らしやすい居住空間や道路環境の整備」30.4%となっている。



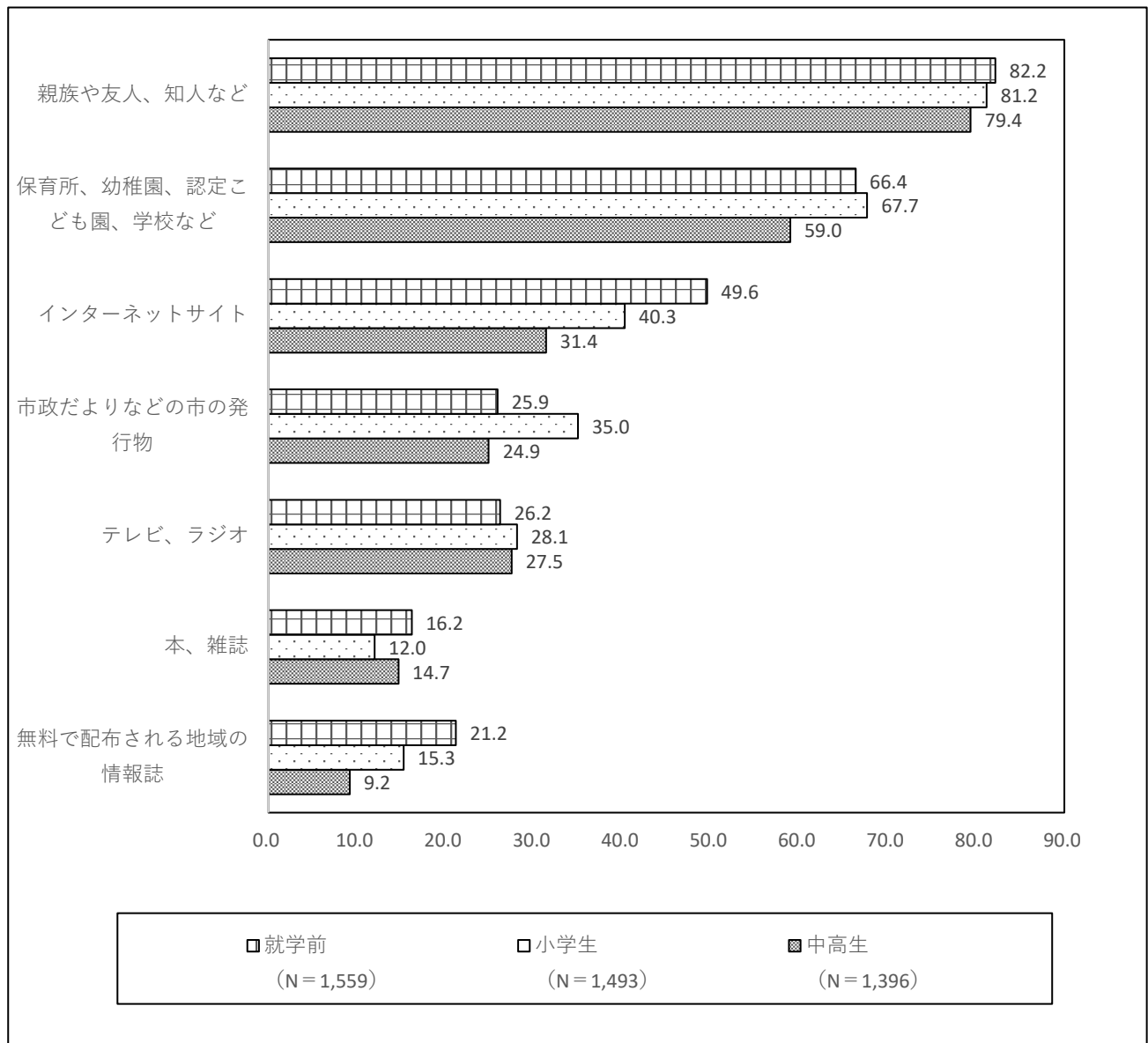
#### 4. 情報の入手方法・発信してほしい内容

##### (1) 子育てに関する情報の入手方法（比率が高い項目を抜粋）【複数回答】

就学前は、「親族や友人、知人など」が82.2%で最も高く、次いで「保育所、幼稚園、認定こども園など」66.4%、「インターネットサイト」49.6%となっている。

小学生は、「親族や友人、知人など」が81.2%で最も高く、次いで「学校」67.7%、「インターネットサイト」40.3%、「市政だよりなどの市の発行物」35.0%となっている。

中高生は、「親族や友人、知人など」が79.4%で最も高く、次いで「学校」59.0%、「インターネットサイト」31.4%となっている。



その他の選択肢

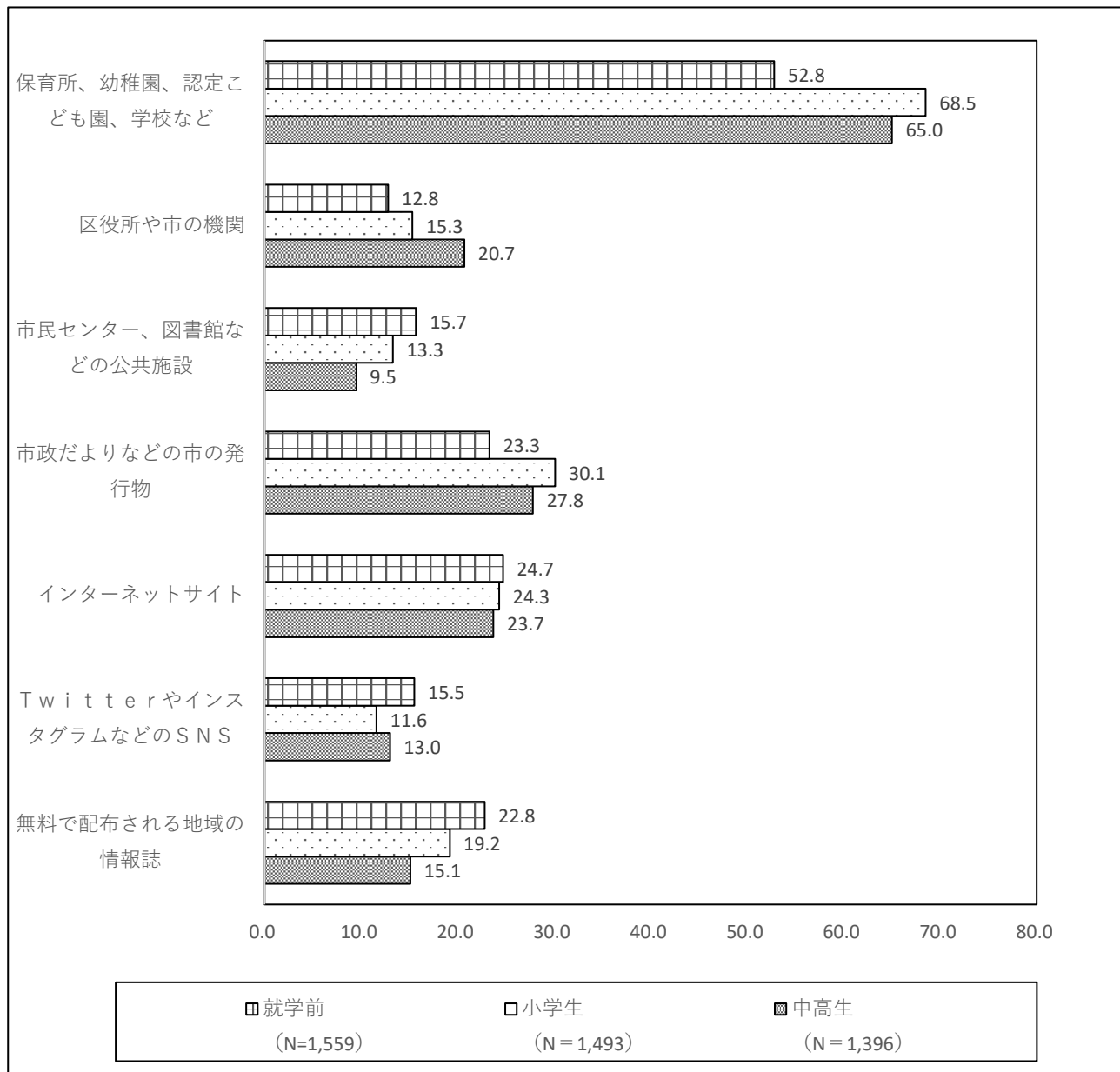
- ・新聞
- ・TwitterやInstagramなどのSNS
- ・市民センター、図書館などの公共施設
- ・区役所や市の機関 など

(2) 行政の子育てに関する情報発信において力を入れてほしいこと（比率が高い項目を抜粋）【複数回答】

就学前は、「保育所、幼稚園、認定こども園など」が52.8%で最も高く、次いで「インターネットサイト」24.7%、「市政だよりなどの市の発行物」23.3%となっている。

小学生は、「学校」が68.5%で最も高く、次いで「市政だよりなどの市の発行物」30.1%、「インターネットサイト」24.3%となっている。

中高生は、「学校」が65.0%で最も高く、次いで「市政だよりなどの市の発行物」27.8%、「インターネットサイト」23.7%となっている。



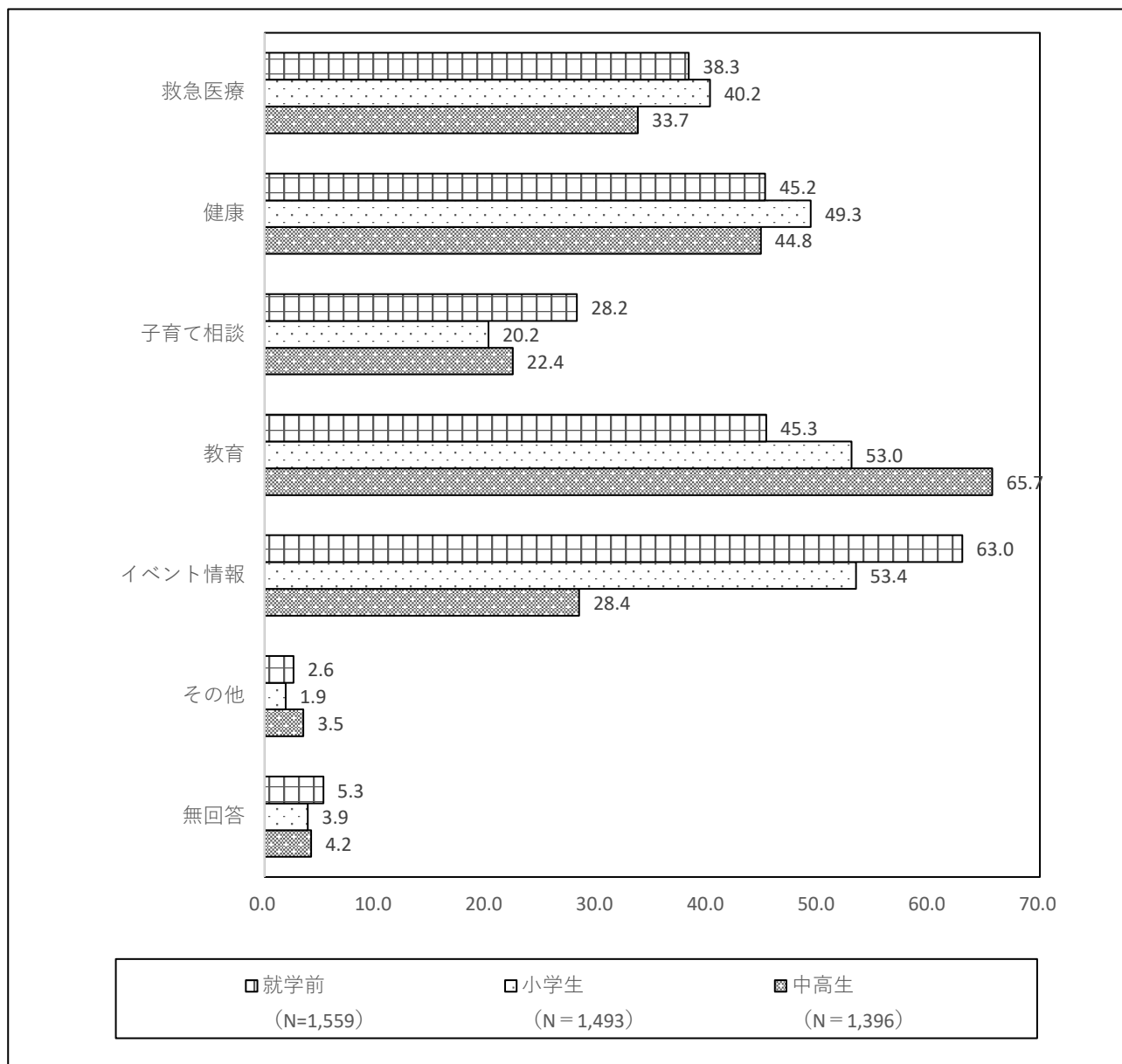
- その他の選択肢
- ・保健師等による家庭訪問（就学前のみ）
  - ・テレビ、ラジオ
  - ・子育て支援アプリ など

### (3) 情報発信してほしい内容【複数回答】

就学前は、「イベント情報」が63.0%で最も高く、次いで「教育」45.3%、「健康」45.2%となっている。

小学生は、「イベント情報」が53.4%で最も高く、次いで「教育」53.0%、「健康」49.3%となっている。

中高生は、「教育」が65.7%で最も高く、次いで「健康（予防接種・健診等）」44.8%、「救急医療」33.7%となっている。





## 5. ワークライフ・バランス

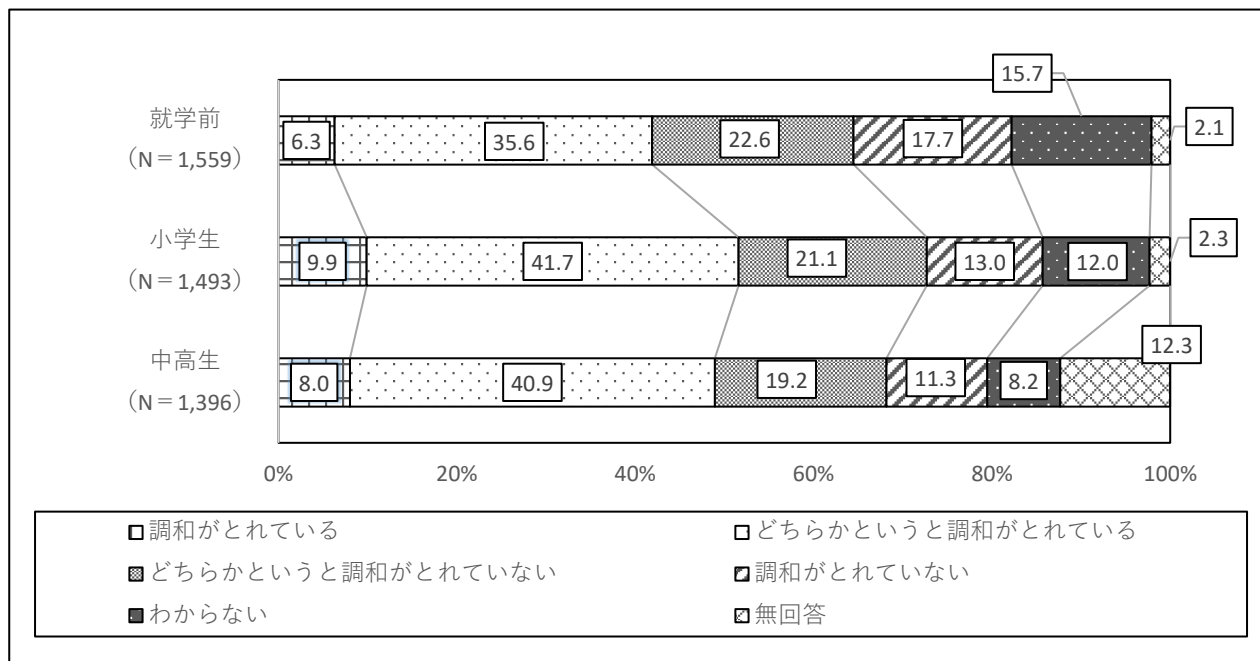
### (1) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の状況

就学前は、「調和がとれている」と「どちらかという調和がとれている」を合わせた比率は41.9%であった。

これに対して、「どちらかという調和がとれていない」と「調和がとれていない」を合わせた比率は40.3%であった。

小学生は、「調和がとれている」と「どちらかという調和がとれている」を合わせた比率は51.6%でほぼ半数であった。これに対して、「どちらかという調和がとれていない」と「調和がとれていない」を合わせた比率は34.1%であった。

中学生は、「調和がとれている」と「どちらかという調和がとれている」を合わせた比率は48.9%であった。これに対して、「どちらかという調和がとれていない」と「調和がとれていない」を合わせた比率は、30.5%となっている。

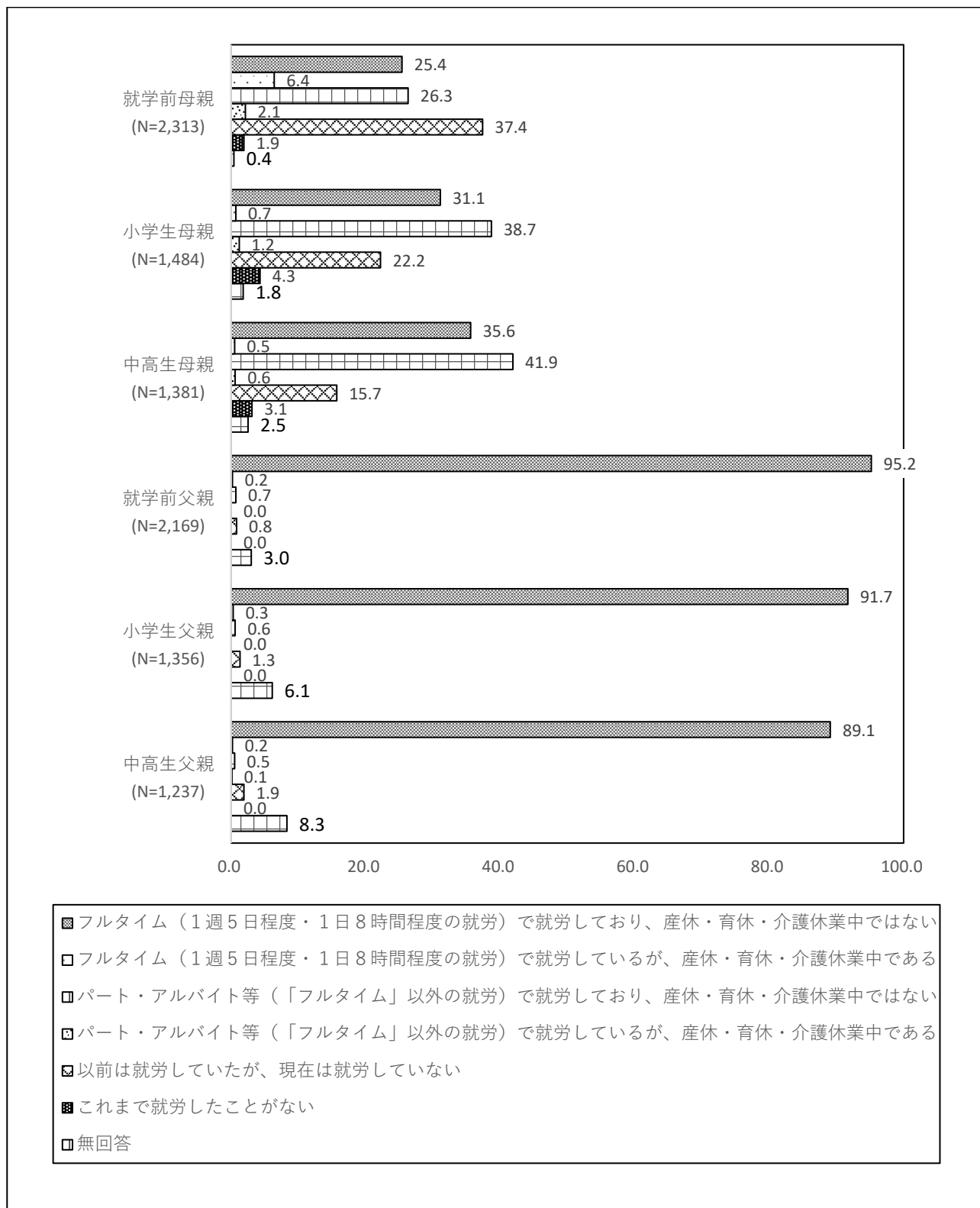


## (2) 保護者の現在の就労状況

母親については、就学前は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が37.4%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」26.3%となっている。

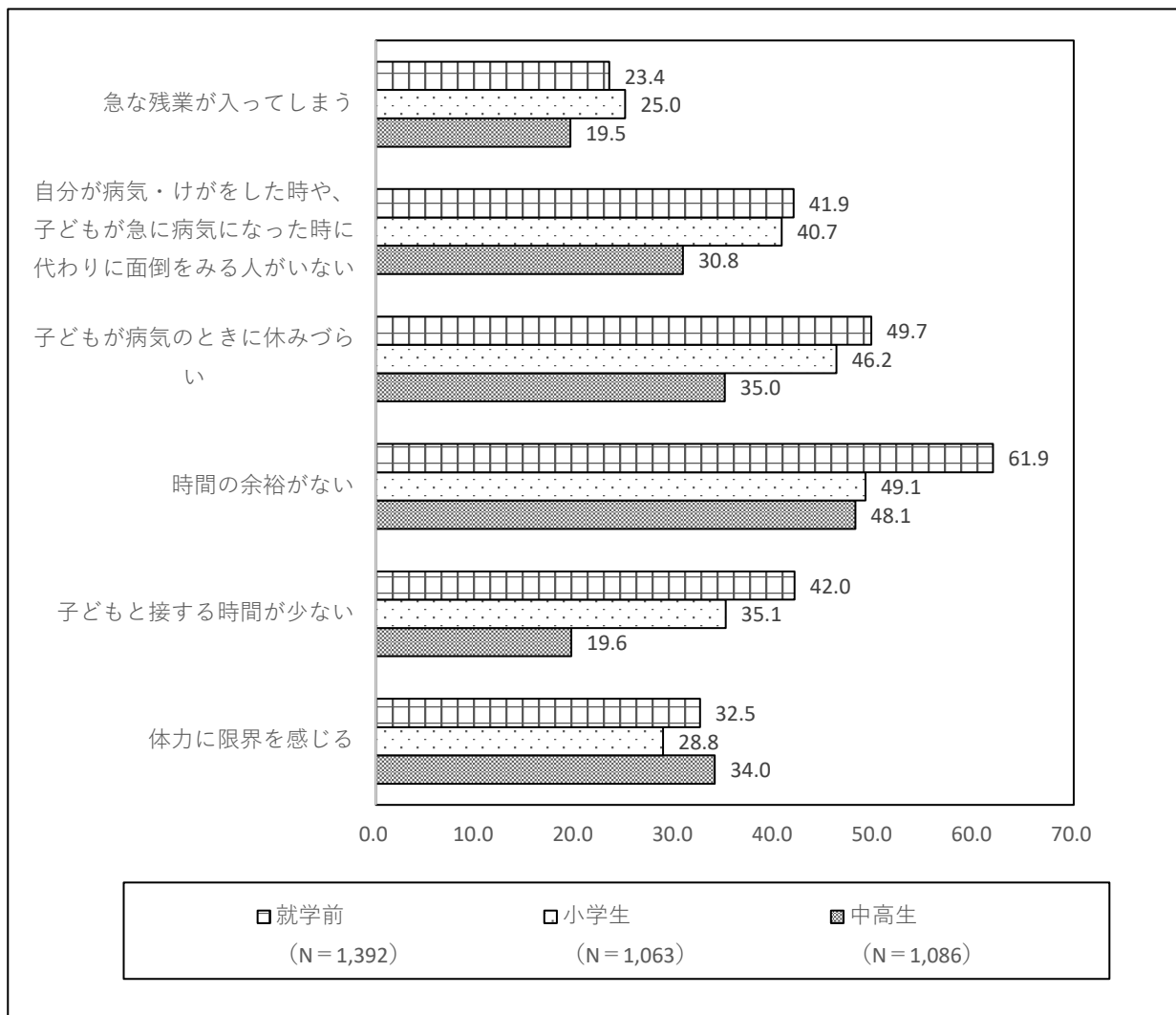
小学生・中高生は、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が、小学生が38.7%、中高生が41.9%で最も高い。

父親の就労状況は、どの年齢区分においても、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も高い割合となっている。



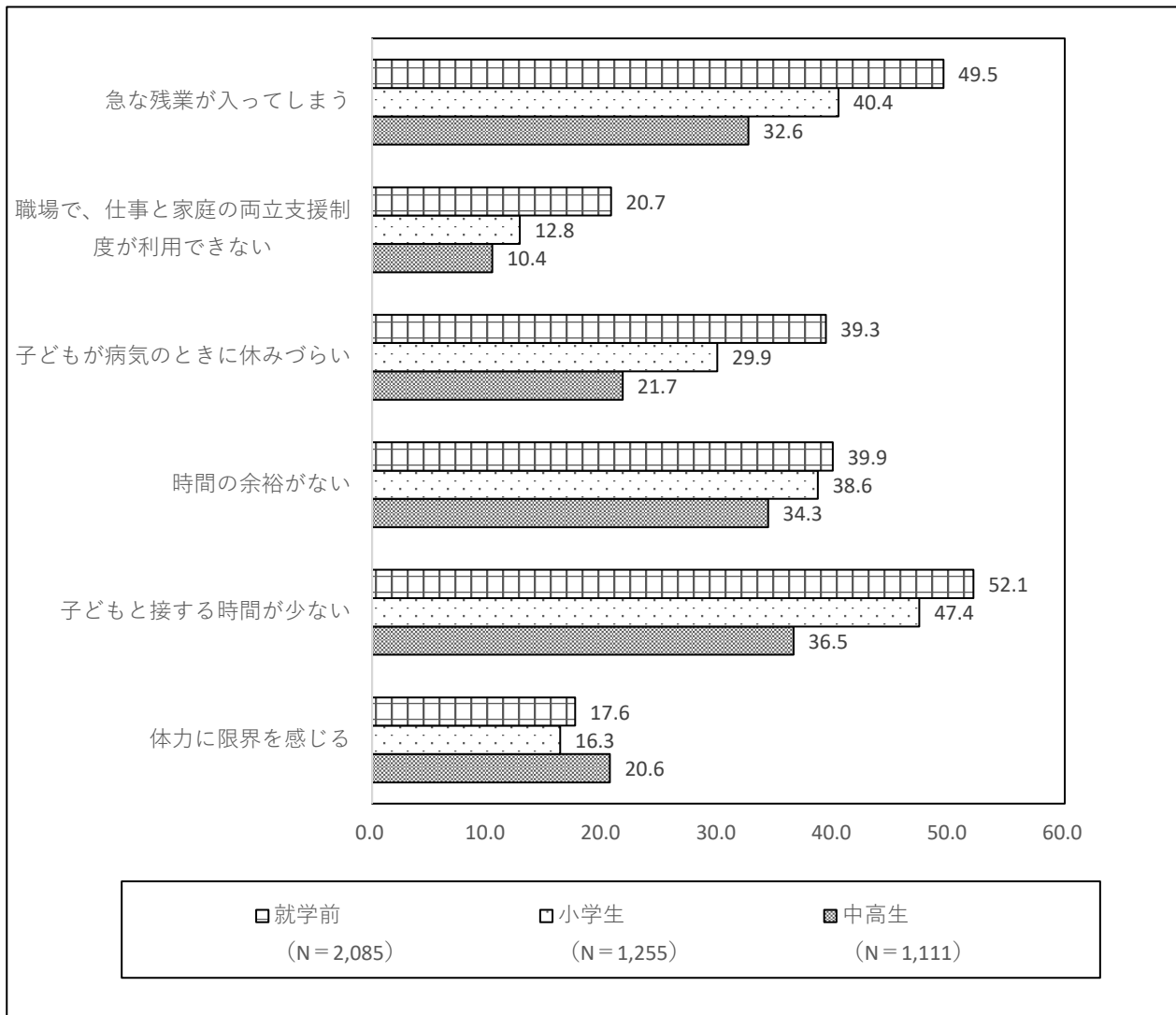
(3) 仕事と子育てを両立させる上で母親が大変だと感じること（比率が高い項目を抜粋）【複数回答】

現在就労している人が、仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることを尋ねたところ、母親は、いずれの年齢区分においても、「時間の余裕がない」が最も高く、次いで「子どもが病気のとときに休みづらい」となっている。



(4) 仕事と子育てを両立させる上で父親が大変だと感じること（比率が高い項目を抜粋）【複数回答】

現在就労している人が、仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることを尋ねたところ、父親は、いずれの年齢区分においても、「子どもと接する時間が少ない」が最も高く、次いで「急な残業が入ってしまう」となっている。



- その他の選択肢
- ・ 家族の理解が得られない
  - ・ 家族等の介護がある
  - ・ 職場の理解が得られない
  - ・ 保育所などがなかなか見つからない
- など

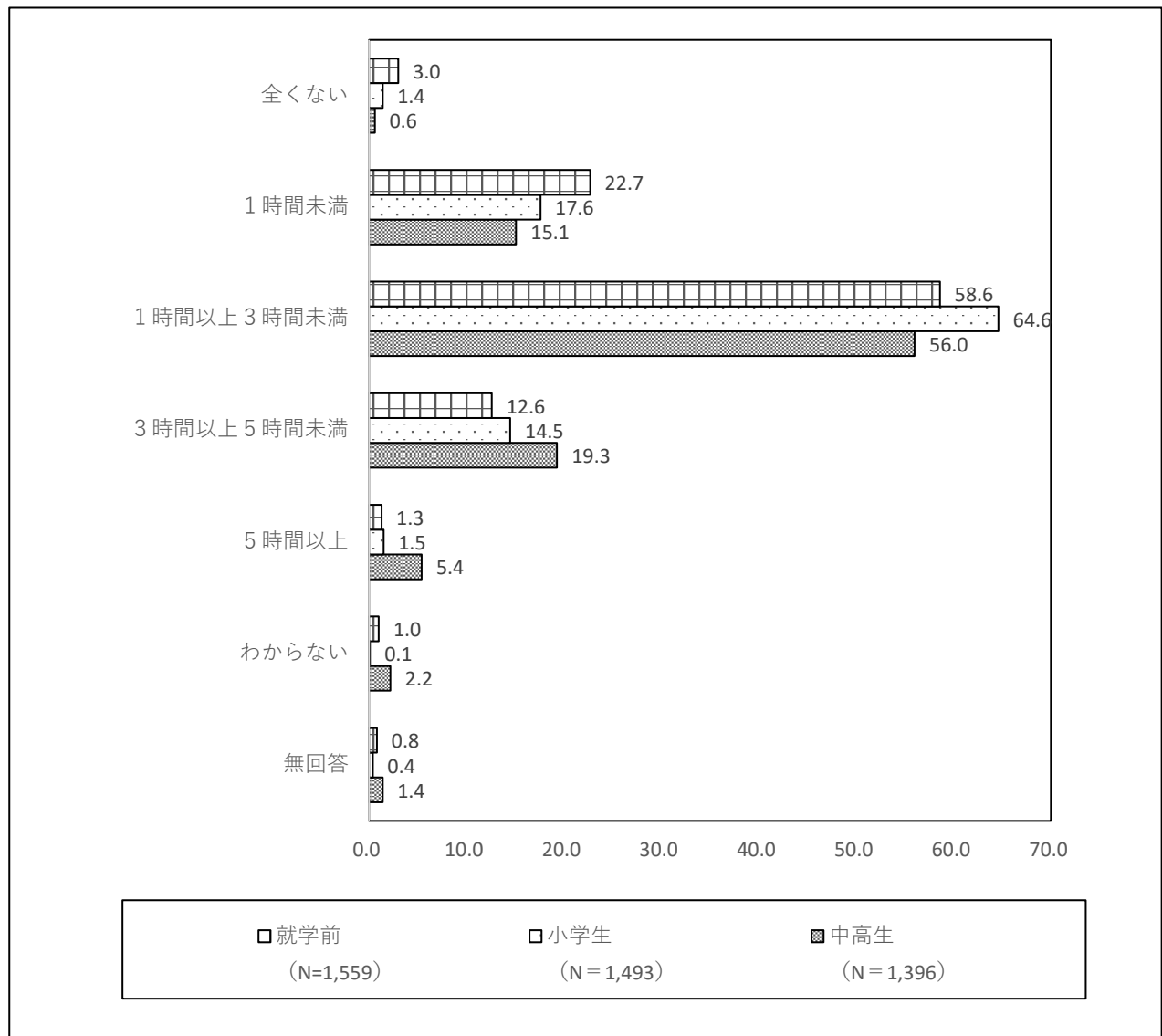
## 6. 子どもの生活と家族の関係

### (1) テレビやインターネット等を見る時間

子どもが1日にテレビやインターネット等を見る時間は、就学前は、「1時間以上3時間未満」が58.6%で最も高く、次いで「1時間未満」22.7%、「3時間以上5時間未満」12.6%となっている。

小学生は、「1時間以上3時間未満」が64.6%で最も高く、次いで「1時間未満」17.6%、「3時間以上5時間未満」14.5%となっている。

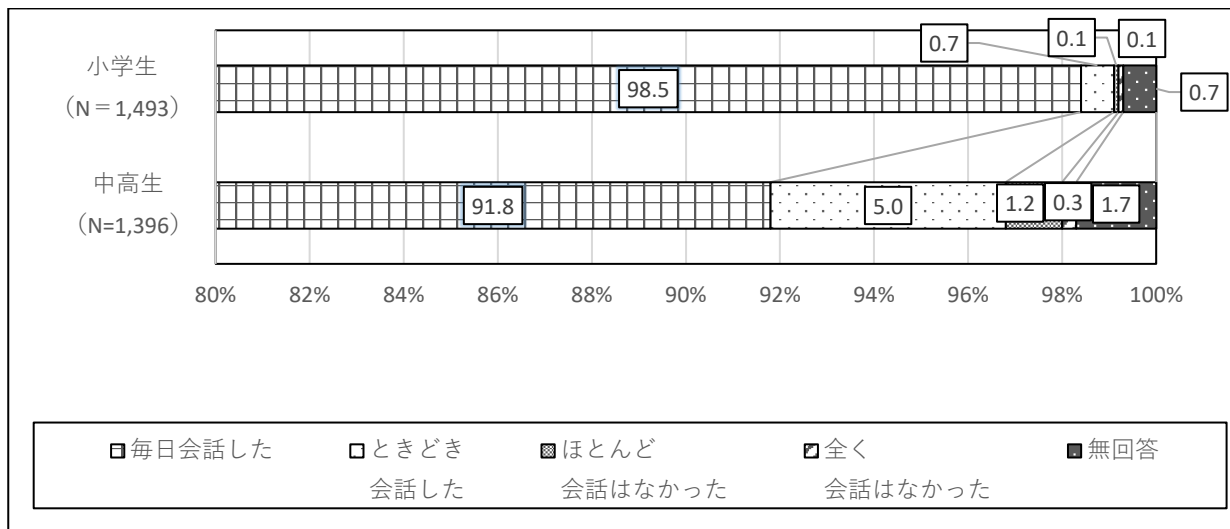
中学生は、テレビやインターネット等を見る時間は、「1時間以上3時間未満」が56.0%で最も高く、次いで「3時間以上5時間未満」19.3%、「1時間未満」15.1%となっている。



## (2) 家族との会話の状況

家族との会話は、小学生は、「毎日会話した」が98.5%と圧倒的多数となっており、「ときどき会話した」は0.7%にとどまっている。

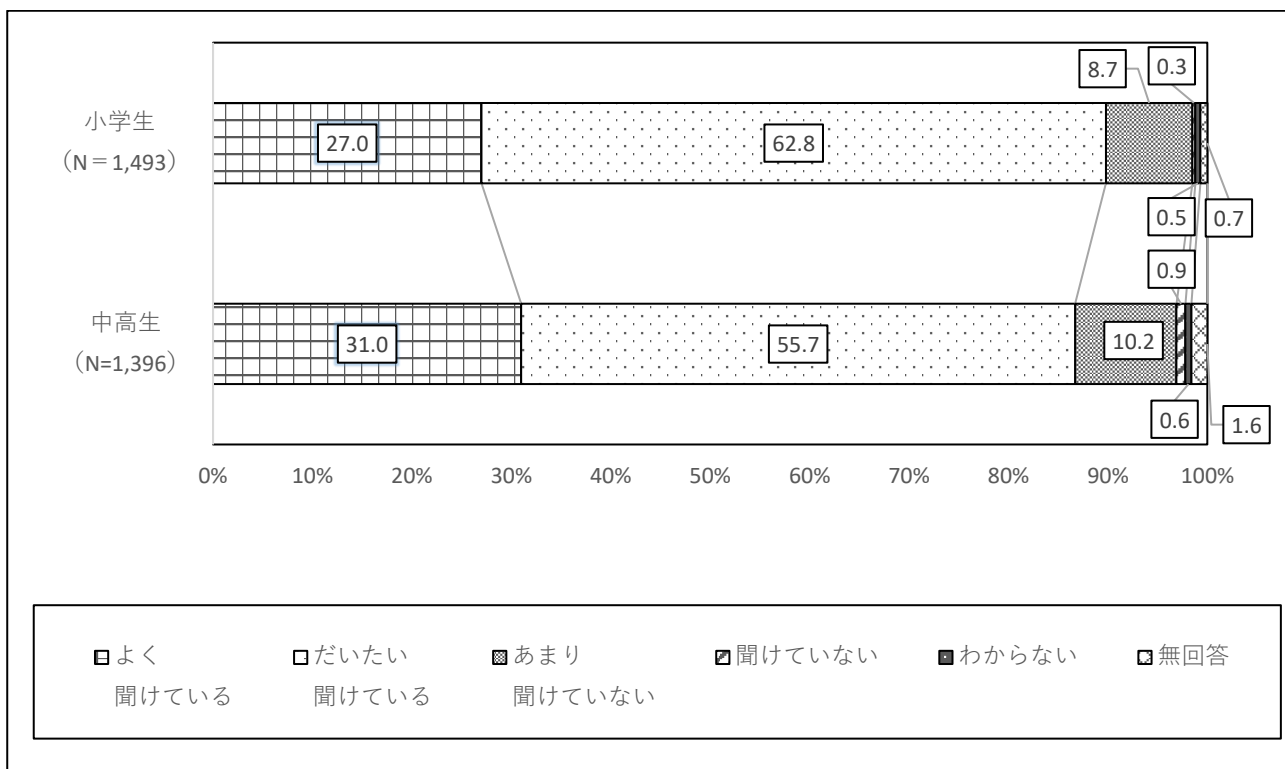
中高生は、「毎日会話した」が91.8%で最も高く、次いで「ときどき会話した」5.0%、「ほとんど会話はなかった」1.2%となっている。



## (3) 子どもの話を聞いているか

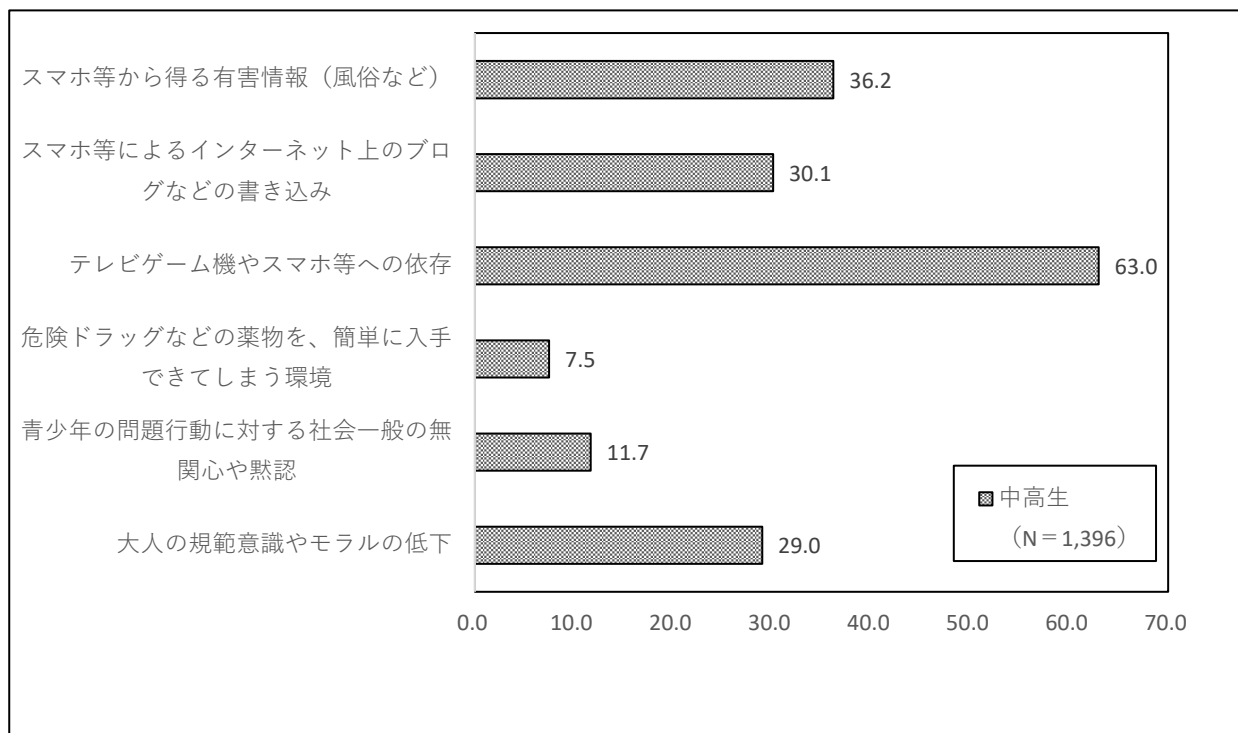
子どもの話をよく聞いているかは、小学生は「だいたい聞いている」が62.8%で最も高く、次いで「よく聞いている」27.0%、「あまり聞けていない」8.7%となっている。

中高生は、「だいたい聞いている」が55.7%で最も高く、次いで「よく聞いている」31.0%、「あまり聞けていない」10.2%となっている。



#### (4) 中高生の親が子どもの生活上で気になること【複数回答】

「テレビゲーム機やスマホ等への依存」が63.0%で最も高く、次いで「スマホ等から得る有害情報（風俗など）」36.2%、「スマホ等によるインターネット上のブログなどの書き込み」30.1%となっている。



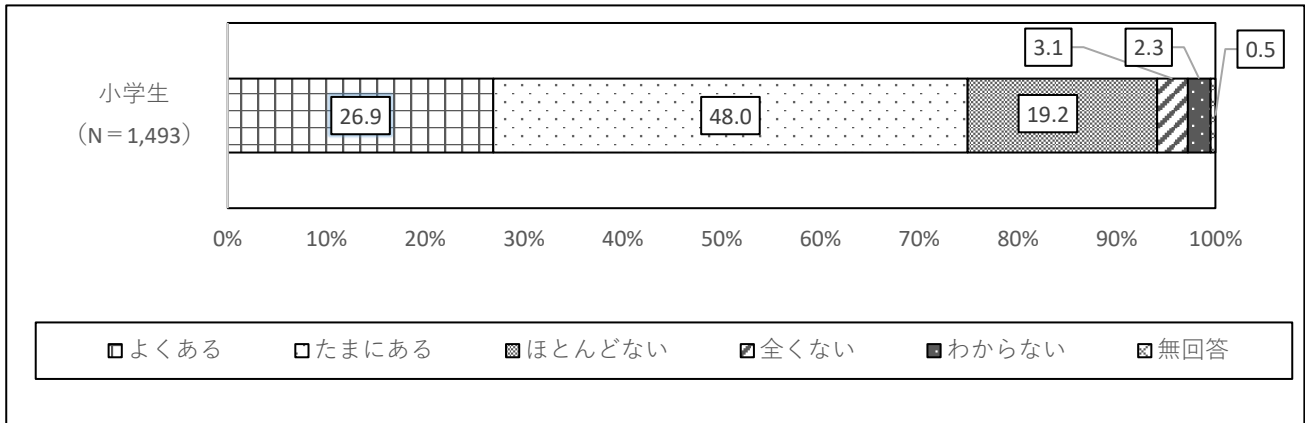
#### その他の選択肢

- ・カラオケボックスやゲームセンターの利用
- ・コンビニエンスストア等の深夜営業施設
- ・酒類やたばこ等を簡単に入手できてしまう環境 など

## 7. 子どもと近隣の大人とのコミュニケーションの状況

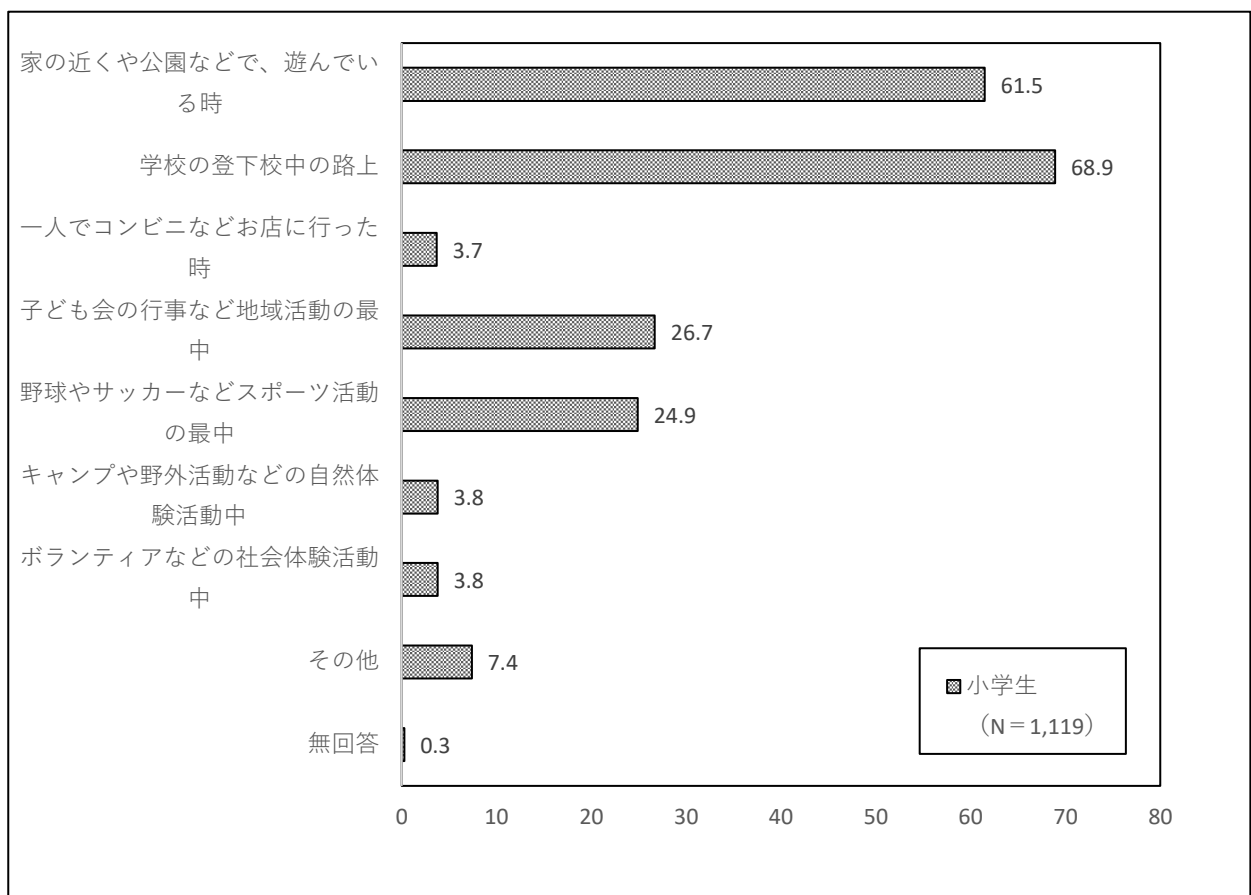
### (1) 近所とのコミュニケーション（声かけなど）の状況（小学生）

「たまにある」が48.0%で最も高く、次いで「よくある」26.9%、「ほとんどない」19.2%となっている。



### (2) 子どもが近隣の大人とコミュニケーションをとる機会【複数回答】

子どもが近隣の大人とコミュニケーションをとる機会は、「学校の登下校中の路上」が68.9%で最も高く、次いで「家の近くや公園などで、遊んでいる時」61.5%、「子ども会の行事など地域活動の最中」26.7%となっている。

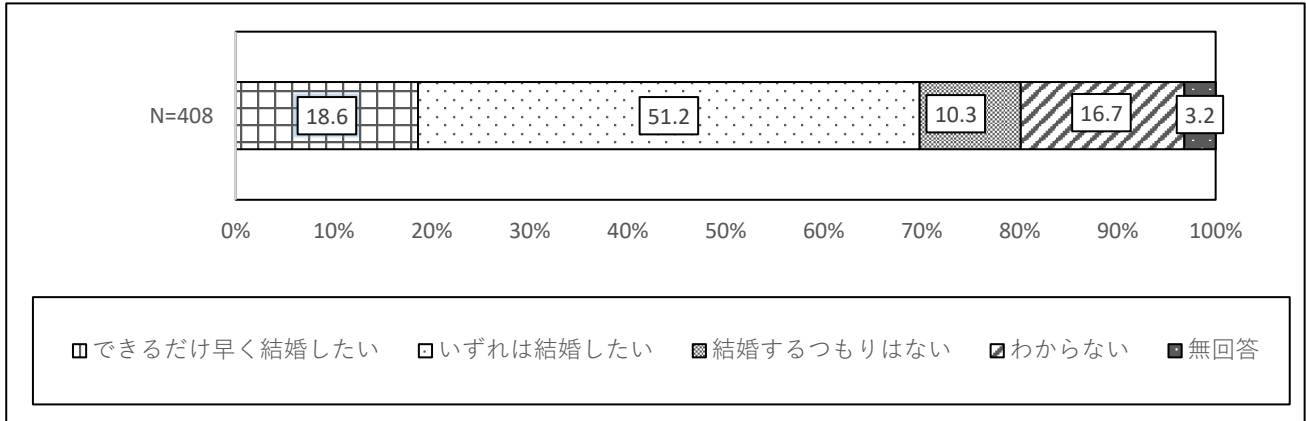




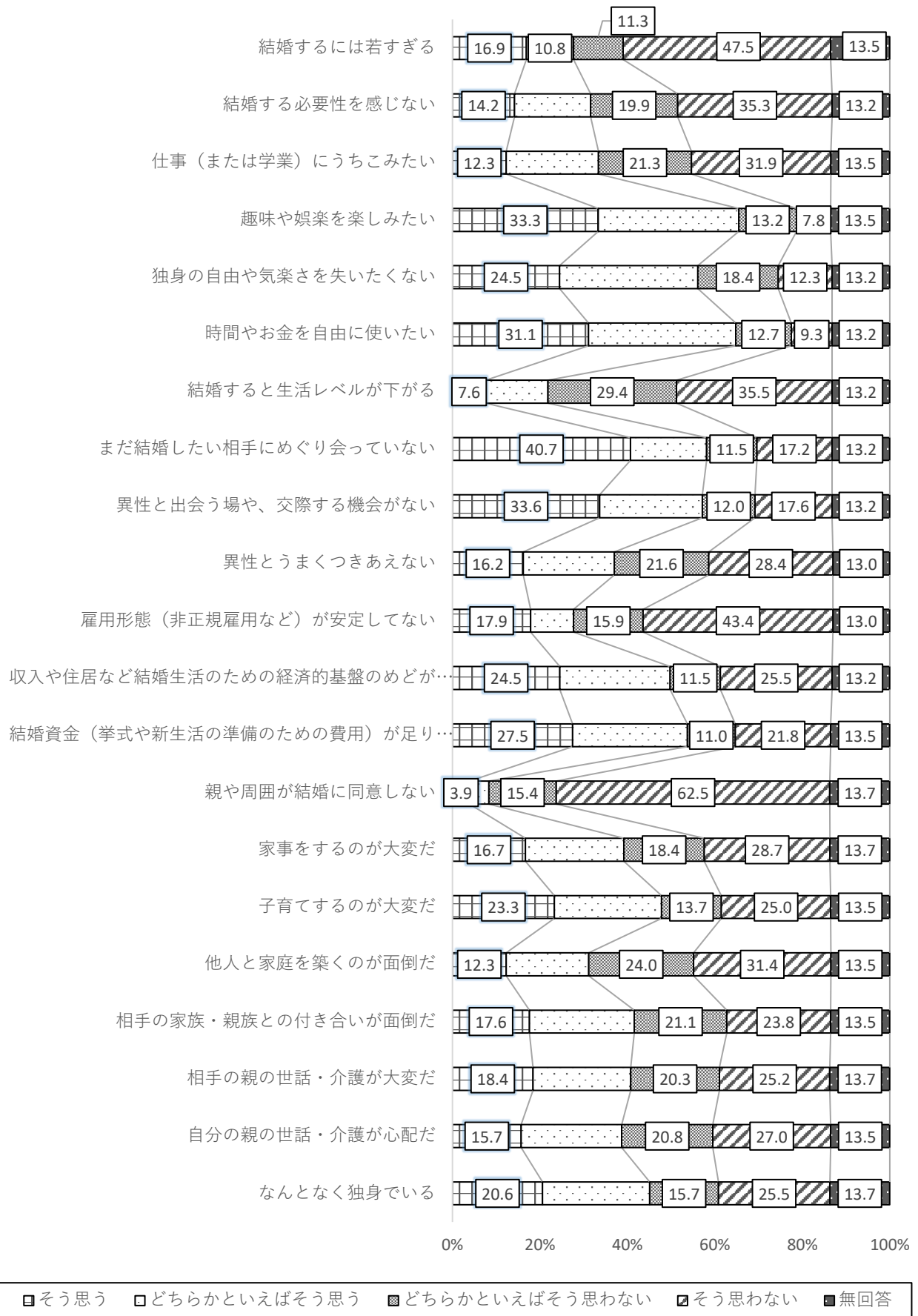
## 8. 結婚・出産について（調査対象：18歳～39歳）

### (1) 現在、結婚していない人の結婚に対する意識

「いずれは結婚したい」が51.2%で最も高く、次いで「できるだけ早く結婚したい」18.6%、「わからない」16.7%となっている。

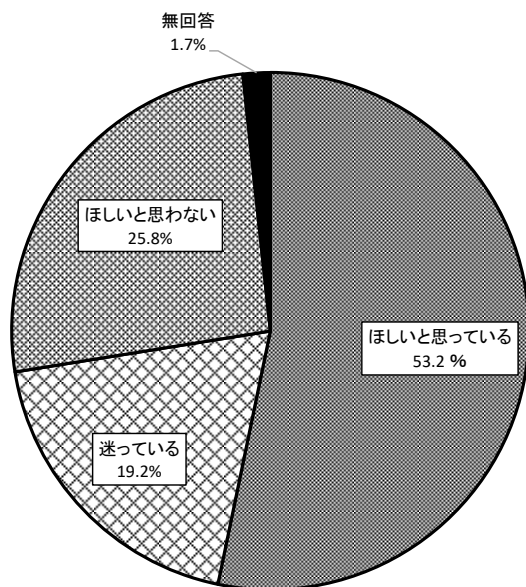


(2) 現在、結婚していない人の独身でいる理由



### (3) 今後、子どもをほしいと思うか

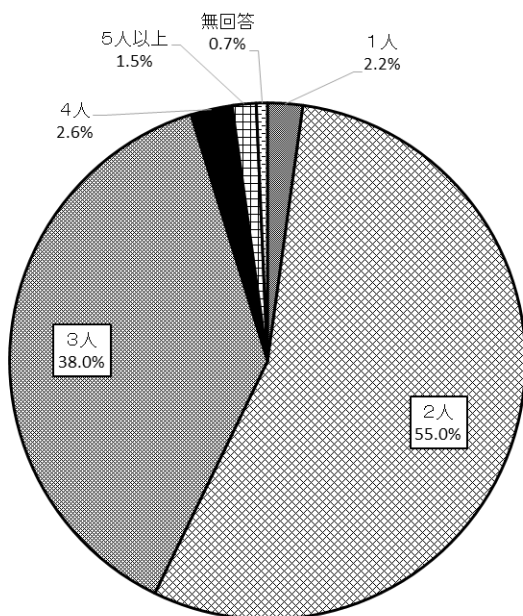
子どもをほしいと思うか尋ねたところ、「ほしいと思っている」が 53.2%で最も高く、次いで「ほしいと思わない」25.8%、「迷っている」19.2%となっている。



N=864

### (4) 理想的な子どもの数

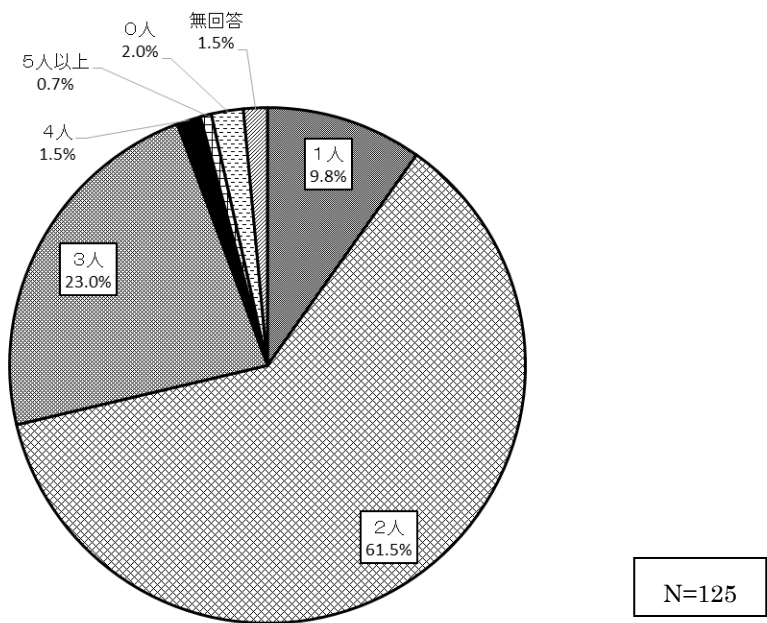
理想的な子どもの数は、「2人」が 55.0%で最も高く、次いで「3人」38.0%、「4人」2.6%となっている。



N=460

(5) 実際に持とうと考えている子どもの数

今後持とうと考えている子どもの数は、「2人」が61.5%で最も高く、次いで「3人」23.0%、「1人」9.8%となっている。



(6) 子どもの数の理想と現実が違う理由【複数回答】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が71.2%で最も高く、次いで「育児の心理的、肉体的負担が大きいから」34.4%、「年齢上の理由から」32.0%となっている。

